

史跡長久手古戦場保存活用計画

(案)

長 久 手 市

平成 30 年 3 月

目 次

第 1 章 計画策定の沿革・目的	1
1 計画策定の沿革	1
2 計画の目的	2
3 計画策定の体制と検討の流れ	2
4 上位計画などとの関係	5
第 2 章 史跡長久手古戦場の概要	12
1 史跡長久手古戦場の概要	12
（1）史跡長久手古戦場の歴史	12
（2）史料等で見る長久手古戦場	15
（3）地形図に見られる変遷	24
（4）写真に見られる変遷	30
（5）史料などに見られる「長久手合戦」の様相	39
2 指定に至る経緯	47
3 指定の状況	50
（1）指定告示等	50
（2）指定解説文	52
（3）指定地の状況	54
（4）指定地の現況	59
（5）指定地の景観	127
4 史跡長久手古戦場と周辺環境	132
（1）自然環境	132
（2）社会環境	133
（3）法規制等	139
第 3 章 史跡長久手古戦場の本質的価値	141
1 史跡長久手古戦場の本質的価値	141
2 史跡長久手古戦場の再評価	143
3 構成要素の特定	145
（1）史跡を構成する要素の説明	148
（2）史跡の周辺環境を構成する要素の説明	154

第4章 現状の課題	156
1 保存、活用の課題の整理	156
(1) 史跡の本質的価値に関する事	156
(2) 保存・活用に関する事	157
(3) 管理上調整が必要な要素に関する事	157
2 整備課題の整理	158
3 運営体制の課題	159
第5章 保存管理の基本方針	160
1 保存管理の基本方針	160
2 保存管理の方法	160
3 現状変更等の取扱い方針	161
(1) 現状変更	161
(2) 現状変更等の取扱い	162
(3) 現状変更等の許可基準	163
(4) 追加指定について	166
第6章 活用計画	167
1 活用の基本方針	167
2 具体的方法	167
第7章 整備計画	169
1 整備の基本方針	169
2 具体的方法	169
第8章 運営・体制の整備	174
1 基本方針	174
2 管理運営及び体制整備の概要	174
第9章 経過観察	176
1 方向性	176
2 方針	176

第1章 計画策定の沿革・目的

1 計画策定の沿革

史跡長久手古戦場は、天正12年（1584）4月9日、織田信長亡き後、天下取りを目指す羽柴（のちの豊臣）秀吉と織田信雄・徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」の主戦場地であり激戦地である。また、天下を目指した秀吉と家康がたった一度直接対決した戦いとして、日本史上、重要な位置づけがなされるものである。長久手とその周辺を戦場とした戦いは「長久手合戦」と称されている。

昭和14年（1939）9月7日文部省告示第410号、史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により、「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」として、国指定史跡に指定された。その後、土地形状の変更により、昭和40年（1965）12月10日付け文化財保護委員会告示第66号により、一部指定を解除されたが、その他の史跡地は、地元有志等による手厚い管理がされてきたことにより、現在も当時の野戦地の様相を想像できる環境が残されている。

このような中、史跡長久手古戦場を取りまく環境は大きく変化し、周辺の住宅地化や大型商業施設の立地が進み、また、指定地を含む古戦場公園においては公園施設の老朽化に伴い、再整備が必要とされている。

これらの状況から、史跡長久手古戦場の価値を損なうことなく適切に保存し、歴史を活かした観光資源としても活用を図るため、保存活用計画を策定することとなった。

2 計画の目的

史跡長久手古戦場は、秀吉と家康がたった一度直接対決した天下分け目の重要な古戦場にして重要な文化遺産である。

また、残された地形や史実を物語る「宝永の碑」、「明和の碑」、「明治の碑」などの遺構、それを大切に保存してきた地域の人たちの歴史がある。

このような史実と保存の歴史を持つ史跡長久手古戦場を取巻く環境は、周辺の住宅地化や大型商業施設の立地など著しい変化がみられる。

本計画の策定は、史跡長久手古戦場の本質的価値や構成要素を明確にし、将来にわたって良好な状態で確実に保存し、市民をはじめ、誰もが活用しやすい環境に整えることを目的とする。そのための保存と管理、整備や活用に関する基本方針を定めるものである。

今後、本計画に基づき、史跡を保存・活用するため、整備や活用に関する方針についても十分に検討をすることとする。

- 現況を把握し、史跡を適正に保存するための保存管理の方針の明示
- 周辺環境の変化、市の将来像を反映した史跡の整備活用のあり方を検討し、魅力のある歴史遺産としての活用

3 計画策定の体制と検討の流れ

平成 28 年 10 月 1 日に「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱を定め、第 1 回「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」を同年 12 月 2 日に開催した。

「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱及び委員等は次のとおりである。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存活用計画（以下「保存活用計画」という。）を策定するため、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- (1) 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存に関すること。
- (2) 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の活用に関すること。
- (3) その他保存活用計画策定に必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員9名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、市長が委嘱する。

(1) 関係する分野に見識を有する学識経験者

(2) 地元有識者

(3) 地元関係者

(4) その他市長が必要と認める者

3 委員会には、助言者を若干名置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から保存活用計画の策定が終了する日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を委嘱することができる。この場合において、補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員の中から委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 議長は、委員長とする。

3 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員会に関係者の出席を求め、その意見を聞き、又は説明を求めることができる。

6 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長が必要と認めるときは、委員の承諾をもって会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、くらし文化部生涯学習課において総括し、処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか委員会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月1日から施行する。

(会議招集の特例)

2 この要綱施行後、最初の委員会招集は、くらし文化部長が行う。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会 名簿

選出区分		氏 名	職名等
学識経験者	(大学関係)	せぐちてつお 瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授
学識経験者	(大学関係)	まるやま ひろむ 丸山 宏	名城大学農学部生活環境科学科教授
学識経験者	(大学関係)	やまむら あ き 山村 亜希	京都大学人間科学研究科准教授
学識経験者	(大学関係)	みずたにえいたろう 水谷 栄太郎	愛知淑徳大学教職・司書・学芸員教育センター教授
地元関係者	(観光交流協会)	すずきたか み 鈴木 孝美	観光交流協会会長
地元関係者	(地元有識者)	たなかよしかず 田中 義和	長久手市文化財保護審議会委員
地元関係者	(地元関係者)	たかの こうじ 高野 晃二	前自治会連合会長・区長会長 (H28 年度会長)
地元関係者	(地元関係者)	あさ い のぶとし 浅井 延鋭	前岩作区会区長 (H28 年度会長)
地元関係者	(地元関係者)	かわもと かつお 川本 勝男	景行天皇社・富士社 氏子総代長 (H28 年度)
地元関係者	(地元関係者)	かわもと ひさし 川本 寿	景行天皇社・富士社 氏子総代長 (H29 年度)
オブザーバー			
オブザーバー		あさ の けいすけ 浅野 啓介	文化庁文化財部記念物課史跡部門文化財調査官
オブザーバー		まつもと あや 松本 彩	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主事

4 上位計画などとの関係

史跡長久手古戦場を含む周辺地域での上位計画及び関連計画は、以下のとおりである。

※上位計画及び関連計画で使用されている地図を使用する際、指定地の位置を加筆している。

① 第5次長久手市総合計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

基本方針の中で指定地に隣接する長久手古戦場駅周辺は、商業をはじめとする集客機能や行政機能などを集積し、本市の新たな顔(シンボル・コア)として整備するとされている。

この総合計画は3つの主要プロジェクト計画があり、その一つである「リニモテラス構想」の目標は、“長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リニモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出します。”とあり、長久手古戦場の知名度や歴史性、古戦場公園の立地も生かした整備をするとしてされている。



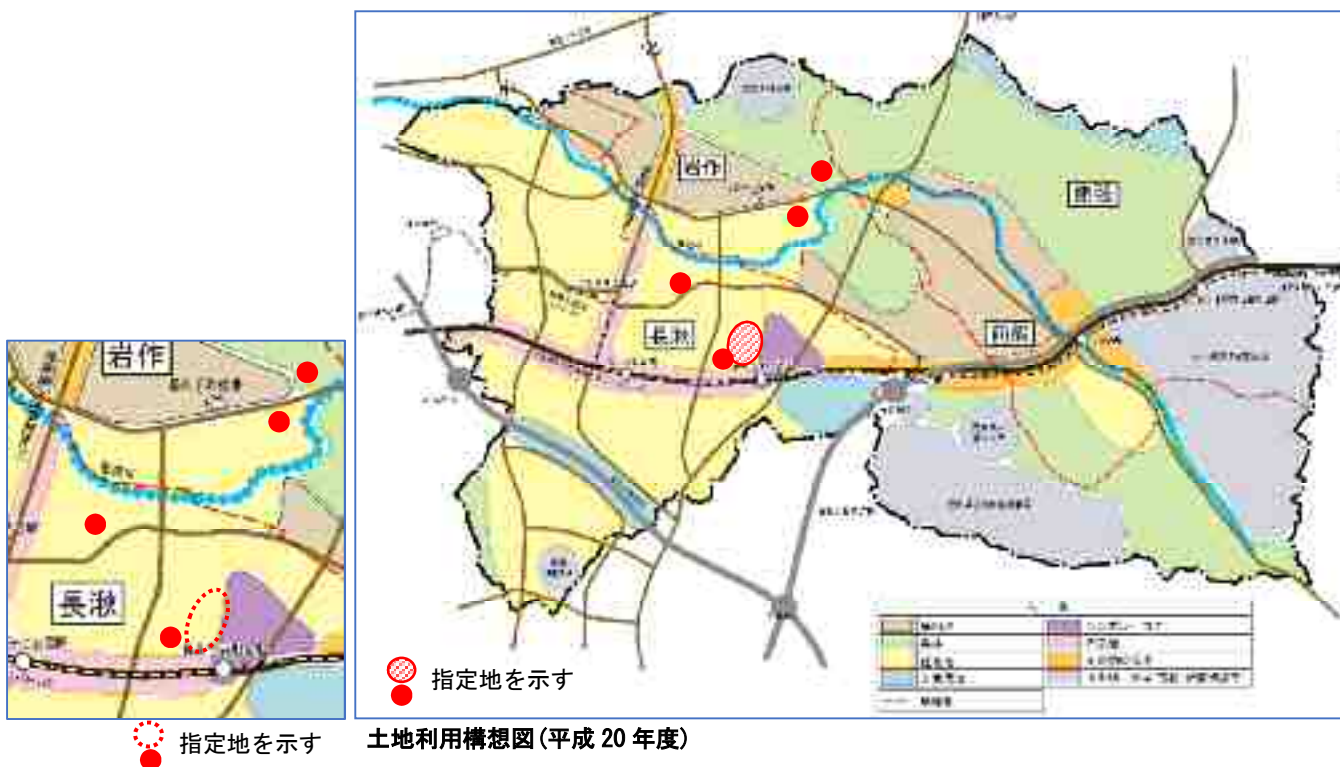
土地利用構想図(平成 20 年度) 指定地を示す



総合計画を受け、まちづくりの基本目標が下図のように掲げられている。

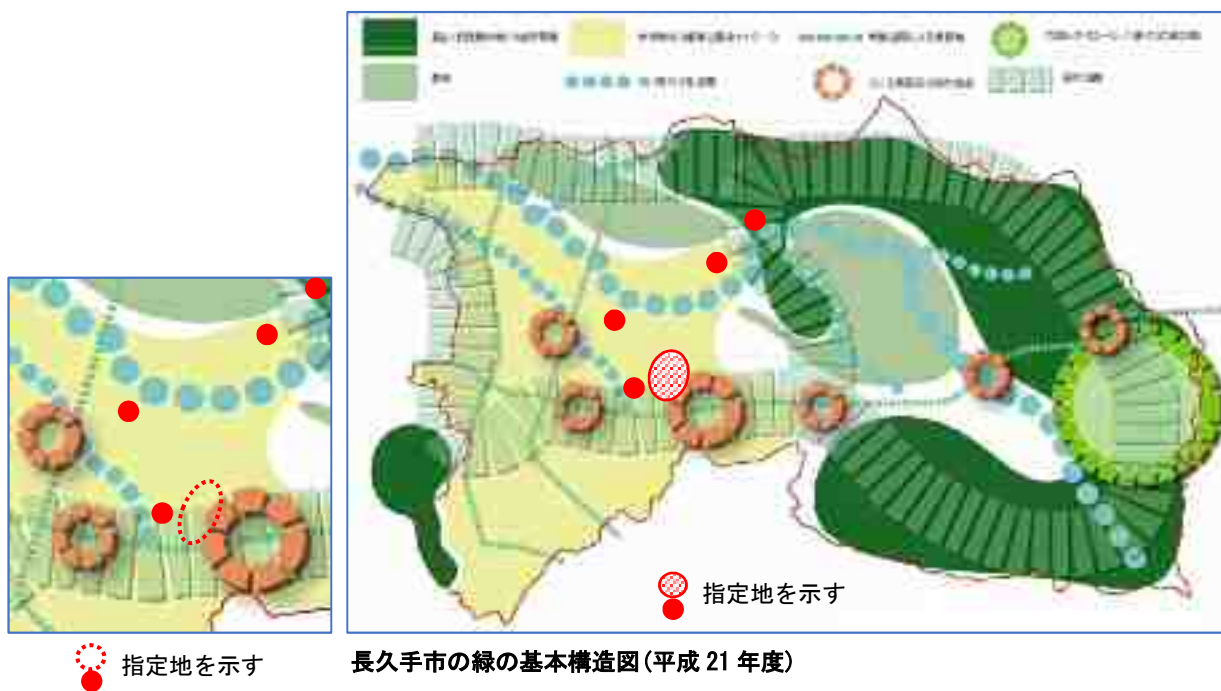


総合計画を踏まえて作成されており、その中で指定地を含む西部地域のうち、市中央部は、本市の新たなシンボル・コアとして商業施設、レクリエーション施設、住宅等の立地を図り、複合拠点の形成を進めるとともに、隣接地域を牽引する土地利用のあり方についても検討を進めます。さらに、将来フレームの検討を踏まえた上で、その周辺部に対し段階的な市街地拡大について検討を進めるとある。



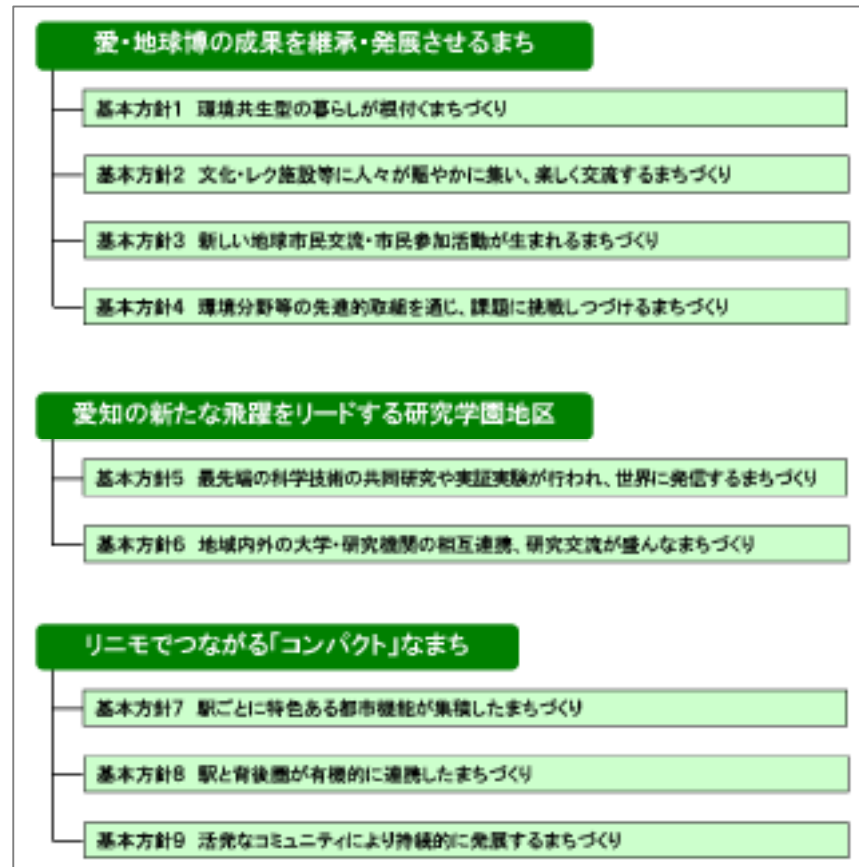
④ 緑の基本計画（平成 22 年 3 月策定、目標年次：平成 30 年度）

緑地の配置及び都市緑化に関する方針の中で、長久手古戦場駅周辺におけるシンボル・コアの形成にあたっては、古戦場公園の歴史要素も含め、本市の新たな「顔」としての景観形成を図るとある。



⑤ リニモ沿線地域づくり構想（目標年次：平成 21～27 年度）

愛知県とリニモ沿線の瀬戸市、豊田市、日進市及び長久手市が共同で策定した地域づくり計画で、地域の将来像とまちづくりの基本方針が以下のように示されている。



⑥ 第 2 次長久手市観光交流基本計画

（平成 27 年 3 月策定、計画期間：平成 27～28 年度）

目標像として、

あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手

“住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて”

基本理念として

魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

があげられている。

また計画に際して、市民や、観光交流に関わる施設職員、市民活動団体、商業店舗の来訪者 20 歳代から 70 歳代までの男女約 130 人を対象にアンケート調査（期間：平成 27 年 1 月）が行われており、市のイメージや今後の観光で重視していくべきことなどが調査されている。



アンケート結果を見ると「市をイメージするキーワード」としては、古戦場公園（指定地も含むと考えられる）が3位と高く、また、「体験観光で重視していくべきこと」では2位となっており、今後は更に古戦場などの歴史的資源を活かした観光への取り組みが望まれていることがわかる。

⑦ 長久手中央地区まちづくり基本構想（平成 25 年 3 月策定）

- 上位計画・関連計画からの条件
- 長久手市東地区は長久手市の賑わいの中心地であり核である
 - 世帯と人にやさしいまちづくりを進める
- 基本コンセプトの検討条件（構想的個性）
- 古戦場としての歴史性を継承すること
 - 東山丘陵の緑の連なりとの調和を図ること
 - 土地利用変化をまちの表情の演出に活用すること
 - 自転車利用の環境条件を適用すること

- ・多様な世代、多様な活動の交流により形の幅わいを創出する
- ・組織としての責任を継承するまちづくりを遂げる
- ・木や石等を用いて自然環境との調和を図ることも時間の経過により変みが
増えまちづくりを遂げる
- ・世帯の墓材費を生かして自然との親近感を高める人にやさしいまちづくりを遂
げる

■基本コンセプト

「緑に溢れ、多様な交流による
賑やかなまち」

■まちづくりのテーマ

木と石と雑木林が織りなす
自然と歴史を感じるまちづくり

●ちんちんダーマ「水と石と性水柱が調い合う自然さ」

よる騒やかなまち」

歴史を感じるとちつくし。

ブラック1：つながり「一人ひとりに役割と居場所」

● ひとつのやり方

Call: 01-422 40 00

- [illegible]

シリエモテラスに於ける植物

- ・大塚との関係、大塚早也と日本共産党の関係を「愛」と「憎恨」と「裏切りの」がテーマ。
・道が熱いその関係、正確性のサーと久留米の愛

のあるまち」

與你的無關

- [illegible]

フラッグ2: あんしん「助けがなかったら生きてい

道長つくりの道州

1. $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

- $$= \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{\infty} \exp(-t^2) dt = \frac{1}{\sqrt{\pi}}$$

出典:『新編 大分県史』大分県史編纂委員会

4. 下列各数中，与 2 是同一个数的是

江 蘇 省 人 民 政 府 公 告

- 例: 変数の宣言と初期化を同時に、併記するのを避ける
- 変数の宣言と初期化を別々の行で記述する
- 例: 変数の宣言と初期化を別々の行で記述する
- 例: 変数の宣言と初期化を別々の行で記述する

けない人は全力で守る」

1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 26

- 在 1980 年之前, 是实行以计划经济为主, 市场调节为辅的体制, 是计划经济为主, 市场调节为辅的体制。
- 1980 年 12 月, 中央工作会议上, 邓小平同志提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1982 年 12 月, 党的十二大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1984 年 10 月, 党的十二届三中全会通过《关于经济体制改革的决定》, 提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1987 年 10 月, 党的十三大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1989 年 6 月, 党的十三届五中全会通过《关于修改宪法部分内容的决定》, 提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1992 年 10 月, 党的十四大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 1997 年 9 月, 党的十五大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 2002 年 11 月, 党的十六大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 2007 年 10 月, 党的十七大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 2012 年 11 月, 党的十八大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 2017 年 10 月, 党的十九大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”
- 2022 年 10 月, 党的二十大提出: “在坚持社会主义的前提下, 允许一部分地区、一部分企业、一部分工人、一部分农民, 先富起来, 带动后富起来。”

フラッグ3：みどり「ふるさと（生命ある空間）」の

三、次文化語言

【注】 ρ 的值为 26.61

- [illegible]

【図解】とくしん「通す」

- 本工務局正與有關部門商討在4號
- 一號及兩號路旁興建單車徑，以加強安全。

【印刷部】印刷部は、印刷物の品質を向上させるために、印刷機を定期的点検し、印刷速度を調整し、印刷物の色合いを調整する。

- 1. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 2. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 3. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 4. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 5. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 6. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 7. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 8. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 9. 下列各句，没有语病的一项是（ ）
- 10. 下列各句，没有语病的一项是（ ）

児童を子どもたちに

References

- ・「野村胡堂」「三浦梧村」は日本から韓国に渡り、韓国の政治、経済、社会などに影響を及ぼして日本にない慣習や事柄等をもたらした「渡韓伝道士」
- ・「ストリートファイター」は、日本漫画家にして漫画家の原田浩が原作
- ・「東洋大」は明治の文部省から設立された私立大学で、1948年に「東京大学」と改称

- ① $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4} = \frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4} = \frac{1}{16}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{16} = \frac{1}{32}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{16} = \frac{1}{64}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{64} = \frac{1}{128}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{64} = \frac{1}{256}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{256} = \frac{1}{512}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{256} = \frac{1}{1024}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1024} = \frac{1}{2048}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1024} = \frac{1}{4096}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4096} = \frac{1}{8192}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4096} = \frac{1}{16384}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{16384} = \frac{1}{32768}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{16384} = \frac{1}{65536}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{65536} = \frac{1}{131072}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{65536} = \frac{1}{262144}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{262144} = \frac{1}{524288}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{262144} = \frac{1}{1048576}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1048576} = \frac{1}{2097152}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1048576} = \frac{1}{4194304}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4194304} = \frac{1}{8388608}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4194304} = \frac{1}{16777216}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{16777216} = \frac{1}{33554432}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{16777216} = \frac{1}{67108864}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{67108864} = \frac{1}{134217728}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{67108864} = \frac{1}{268435456}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{268435456} = \frac{1}{536870912}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{268435456} = \frac{1}{1073741824}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1073741824} = \frac{1}{2147483648}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1073741824} = \frac{1}{4294967296}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4294967296} = \frac{1}{8589934592}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4294967296} = \frac{1}{17179869184}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{17179869184} = \frac{1}{34359738368}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{17179869184} = \frac{1}{68719476736}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{68719476736} = \frac{1}{137438953472}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{68719476736} = \frac{1}{274877906944}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{274877906944} = \frac{1}{549755813888}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{274877906944} = \frac{1}{1099511627776}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1099511627776} = \frac{1}{2199023255552}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1099511627776} = \frac{1}{4398046511104}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4398046511104} = \frac{1}{8796093022208}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4398046511104} = \frac{1}{17592186044416}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{17592186044416} = \frac{1}{35184372088832}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{17592186044416} = \frac{1}{70368744177664}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{70368744177664} = \frac{1}{140737488355328}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{70368744177664} = \frac{1}{281474976710656}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{281474976710656} = \frac{1}{562949953421312}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{281474976710656} = \frac{1}{1125899906842624}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1125899906842624} = \frac{1}{2251799813685248}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1125899906842624} = \frac{1}{4503599627370496}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4503599627370496} = \frac{1}{9007199254740992}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4503599627370496} = \frac{1}{18014398509481984}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{18014398509481984} = \frac{1}{36028797018963968}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{18014398509481984} = \frac{1}{72057594037927936}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{72057594037927936} = \frac{1}{144115188075855872}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{72057594037927936} = \frac{1}{288230376151711744}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{288230376151711744} = \frac{1}{576460752303423488}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{288230376151711744} = \frac{1}{1152921504606846976}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1152921504606846976} = \frac{1}{2305843009213693952}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1152921504606846976} = \frac{1}{4611686018427387904}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4611686018427387904} = \frac{1}{9223372036854775808}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4611686018427387904} = \frac{1}{18446744073709551616}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{18446744073709551616} = \frac{1}{36893488147419103232}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{18446744073709551616} = \frac{1}{73786976294838206464}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{73786976294838206464} = \frac{1}{147573952589676412928}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{73786976294838206464} = \frac{1}{295147905179352825856}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{295147905179352825856} = \frac{1}{590295810358705651712}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{295147905179352825856} = \frac{1}{1180591620717411303424}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{1180591620717411303424} = \frac{1}{2361183241434822606848}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{1180591620717411303424} = \frac{1}{4722366482869645213696}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{4722366482869645213696} = \frac{1}{9444732965739290427392}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{4722366482869645213696} = \frac{1}{18889465931478580854784}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{18889465931478580854784} = \frac{1}{37778931862957161709568}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{18889465931478580854784} = \frac{1}{75557863725914323419136}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{75557863725914323419136} = \frac{1}{151115727451828646838272}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{75557863725914323419136} = \frac{1}{302231454903657293676544}$ 、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{302231454903657293676544} = \frac{1}{604462909807314587353088}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{302231454903657293676$

1. 本行は、1994年12月25日現在、東京証券取引所に上場している。

- [illegible]

これらの上位計画を見ると、各計画とも指定地に近接するリニモ長久手古戦場駅周辺を市の新たな都市核（シンボル・コア）として位置づけ、整備して行こうとしているのがわかる。

⑧ 古戦場公園再整備基本構想（平成 27 年 3 月策定）

この計画は、総合計画などの上位計画をうけ、市民や市内の大学生の参加によるワークショップ形式で計画されたもので、史跡地を含んだ古戦場公園の再整備に向けて基本的な方針を検討したものである。



市民や大学生による検討会

[illegible]

この構想に基づき、古戦場公園再整備基本計画（平成 29 年 3 月策定）を策定した。
この詳細については、別で示すものとする。

第2章 史跡長久手古戦場の概要

1 史跡長久手古戦場の概要

(1) 史跡長久手古戦場の歴史

天正10年(1582)6月、織田信長が本能寺で明智光秀に討たれことを発端に、羽柴(のちの豊臣)秀吉と織田信雄・徳川家康が天下をかけて戦ったのが、「小牧・長久手の戦い」である。長久手古戦場は両軍が激突した激戦地として知られている。以下に戦いの概要を述べる。



[出展 ; H21 年度長久手町郷土資料室特別展資料より]

小牧・長久手の戦い

◆発端

天正10年(1582)6月、織田信長が家臣の明智光秀の手にかかり、本能寺で討たれた。そのとき、信長の三男信孝を大将に、光秀討伐軍を指揮したのが、羽柴(のちの豊臣)秀吉である。秀吉は、信長の後継者を決める清洲会議からしばらくすると、柴田勝家と対立し、天正11年(1583)賤ヶ岳の戦いで破った。こうした中で、信長の次男信雄は、当初は秀吉と友好関係をもったものの、信孝が秀吉に岐阜城を追われ自害した後からは警戒心をもつようになった。信長の後継者の立場を事実上確立した秀吉に対し、不満を感じる信雄は、織田家の同盟者であった徳川家康に助けを求めた。家康は、いつかは秀吉と対決しなければならないと考えていたので、これに応じた。天正12年(1584)3月6日、信雄が秀吉に内通していた三人の家老を殺害したことで、「小牧・長久手の戦い」は始まった。

◆主戦場は尾張に

秀吉そして家康・信雄の両者とも、当面は伊勢国、特に信雄の本拠長島城（三重県桑名市）のある北伊勢を戦闘場所と想定していた。しかし、家康・信雄の予想に反し、美濃国大垣城主・池田恒興と美濃国金山城主・森長可が犬山城（愛知県犬山市）を攻撃、落城させた。慌てた家康は、池田・森の侵攻を防ぐため、自軍の一部を北伊勢から北尾張へ急遽転戦。天正12年（1584）3月17日、羽黒（犬山市）まで陣を進めてきた森軍を、家康の部将酒井忠次らが敗って、形勢を立て直した〔羽黒の戦い〕。一方、北伊勢では秀吉軍への守りが不足し、信雄領伊勢国の南半分は、ほぼ壊滅状態となった。羽黒で敗戦したものの、敵地犬山に拠点をもつことに成功した秀吉は、楽田（犬山市）に着陣、周辺に砦を築いた。楽田から南方約4.5kmの小牧山（愛知県小牧市）に家康も陣を移し、近辺に砦を作った。信雄も長島から小牧山に移った。両者の当初の思惑に反し、主戦場は尾張国内へ移り、お互いが出方をうかがうという状況になった。また、諸国へもこの戦いの様相が伝えられ、両将からの呼びかけに呼応し合戦に至った地域もある。秀吉方、織田・徳川方のどちらにつくか。この戦いは、日本中へ大きな影響をおよぼした。

◆岡崎進軍

4月に入り、膠着状態を破って秀吉軍は岡崎侵攻のための別働隊を進めた。史記類をもとにした通説では、この作戦の発案者は池田恒興で、「家康配下のほとんどの部隊は小牧山にいる。今、家康の本拠地岡崎を突けば、家康軍に乱れが生じ、そこを突けば勝利できる」と提案。最初はこの案に賛成しなかった秀吉も、恒興の熱心さに押され、ついに承諾したとされる。しかし、近年の研究で、事前の普請（工事）、行軍の規模、ゆっくりとした移動日程などから、この作戦は隠密行動というより、計画的で大がかりなものであったことがわかってきた。秀吉は、この案に主体的に介入し、自信をもっていたと思われるが、結果的には、この作戦の失敗は秀吉の汚点となった。そのため「太閤記」では、秀吉が恒興の案を「仕方なく受け入れた」と記され、後の史記がそれに従ったと考えられる。4月6日夜半、①池田恒興・元助の父子、森長可②堀秀政、長谷川秀一③秀吉の甥で総大将の三好信吉（後の豊臣秀次）の順で、約24,000人の軍勢が岡崎へ向けて進軍を始めた。

※軍勢の人数には諸説ある

◆岩崎城の落城

家康は、7日、遅くとも8日には秀吉方の岡崎侵攻隊の動きを把握、8日夜には自身が小幡城（名古屋市守山区）へ進んだ。岩崎城主丹羽勘助氏次を道案内役とした榊原康政ら4,500人の先発隊と9,300人の本隊が秀吉方を追撃に向かった。4月9日早朝、岡崎侵攻隊の先鋒池田隊は、岩崎城（日進市）のそばを通りかかった。恒興は、岡崎への道を急ぐため、この家康方の城を攻めずに通過しようとしたが、岩崎城を守っていた氏次の弟丹羽氏重らが鉄砲を撃ちかけてきたため、これを攻め落としてしまった。この城には、城主氏次の姉婿で長久手城主の加藤太郎右衛門忠景も留守番に来ており、200名余りの城兵とともに戦死した。忠景41歳、氏重16歳であった。なお、長久手城趾は、現在市指定史跡となっている。※軍勢の人数には諸説ある

◆白山林の戦い -家康軍の急襲-

秀吉の甥で、当時わずか17歳の三好信吉が指揮する秀吉方の最後尾は、4月9日早朝、白山林（尾張旭市）で朝食をとっていた。そこへ徳川軍の先発隊が背後から急襲。不意を突かれた三好隊は、あわてて防戦に努めたが、ついに総崩れとなった。大将信吉は細ケ根（長久手市荒田）付近まで逃げてきたが、自分の馬も見失って、討死寸前まで追い込まれた。そこへ信吉の部将の木下勘解由利匡が、自分の馬を信吉にさし出して逃し、兄弟の木

下助左衛門祐久とともに、追ってきた徳川軍と戦って戦死した。なお、木下一族の塚は現在も荒田に残っており、木下勘解由利匡の塚が市指定史跡になっている。

◆ 桧ヶ根の戦い - 秀吉軍 唯一の勝ち戦 -

三好隊の敗走を知った秀吉方の第2隊の堀秀政は、ただちに桧ヶ根（長久手市坊の後／中央図書館付近）の丘陵上に陣を構えた。まもなく白山林で勝利した徳川勢が突進してきた。地の利を得た堀勢は、接近してきた敵に鉄砲のつるべ打ちをあげせた。隊列を乱した徳川勢に向けて、秀政は総攻撃を命令。堀勢の鋭い攻撃に徳川の先発隊は、多数の死者を出し、大打撃を受けた。しかしこのとき、秀政はすでに家康の本体が東方に進出しているのを知った。深追いは不利と判断した秀政は、急いで自軍をまとめて、北方へ引き上げていった。

◆ 仏ヶ根の決戦

4月9日の朝、色金山（長久手市岩作色金／色金山歴史公園）周辺に着いた家康の本隊は、続々と香流川を渡って、午前10時ごろ富士ヶ根（長久手市富士浦）から仏ヶ根（長久手市武蔵塚の北部）、前山（長久手市城屋敷の東部）に陣を構えた。一方、岩崎城を落とした池田恒興のもとへ、信吉大敗の報告がもたらされた。恒興は急いで馬首を返し、すでに布陣を終えた徳川軍に対し、恒興は自分の長男元助を右翼に、娘婿の森長可を左翼に配した。両軍は激しく戦ったが、勝敗はなかなか決しなかった。しかし昼ごろ家康の本営に突進した長可が、井伊隊の銃弾を頭に受けて戦死（享年27歳）したため、戦いは徳川軍が優勢になった。戦闘の終焉は、午後1時であった。池田恒興は長田伝八郎に、子の元助は安藤直次に討たれた。恒興49歳、元助26歳であった。池田父子の塚は、現在も国指定史跡として古戦場公園内に残る。

◆ 和睦

長久手の戦いで勝利をおさめた家康は、ただちに小幡城を経て小牧山に戻った。一方秀吉は4月9日昼ごろ、楽田の本営で岡崎侵攻隊の敗戦を知り、すぐに大軍を率いて救援に向かった。しかし、ときすでに遅く、龍泉寺まで進んだものの、そのころには家康は小幡城まで兵を引いた後であった。翌10日には、家康はすでに小牧城まで戻っており、秀吉軍は、なすすべもなく楽田にひき返した。その後、両軍は小牧・楽田周辺で小競り合いをしていたが、4月下旬に秀吉が美濃国鶯沼（岐阜県各務原市）に移動すると戦闘地域も尾張西部へ移った。5月に加賀野井城・竹鼻城（岐阜県羽島市）、6月に蟹江城（愛知県海部郡蟹江町）で局地戦があったが、11月になると、桑名から長島方面へ攻撃した秀吉と、長島城にこもる信雄が単独で和睦したため、大義名分を失った家康も兵を引き、約8か月間にわたった「小牧・長久手の戦い」は、幕を閉じた。

この戦いで、信雄は伊勢国の大半と伊賀国を秀吉にわたし、事実上の敗北。秀吉は、旧信長家臣団を自身へ臣従させ支配体制を再編成、翌年には関白となり全国統一を推し進めていく。家康は、結果的に秀吉に臣従したが、その実力を全国の大名に認識させ、秀吉政権下でも別格の地位を保ち、徳川政権樹立の足がかりを固めていった。

（２）史料等で見える長久手古戦場

ア 合戦図屏風

「小牧・長久手の戦い」、特に「長久手合戦」の様子を描いた合戦図屏風は複数存在する。最も早い時期に成立したといわれ、他の写本の基となったといわれるものに公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」（以下「成瀬家本」という。）がある。

※下表の合戦図屏風については、●印のあるものは長久手町史 本文編 付図に詳細な解説がある。

表 合戦図屏風一覧

名 称	作成年代	所 蔵	備 考
●小牧長久手合戦図屏風(副本) 六曲一隻	江戸初期	公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵	成瀬家本の副本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	松浦史料博物館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	三河武士のやかた家康館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	東京都個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風(粉本) 六幅	江戸後期	東京国立博物館	成瀬家本の粉本
●小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	徳川美術館所蔵	成瀬家本の写本、一部改作
●小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸中期	大阪城天守閣所蔵	徳川本系の写本
●長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸中期	豊田市郷土資料館所蔵（浦野家旧蔵）	成瀬家本の写本、一部改作
●小牧長久手合戦図屏風	江戸中期	名古屋博物館所蔵	
※●の作成年代は、「長久手町史 本文編」による。その他は、「図説 戦国合戦図屏風」2004年（学研）を参考とした。			



小牧長久手合戦図屏風

公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵



小牧長久手合戦図屏風

大阪城天守閣所蔵



小牧長久手合戦図屏風

徳川美術館所蔵



長久手合戦図屏風

豊田市郷土資料館所蔵（浦野家旧蔵）



小牧長久手合戦図屏風

名古屋市博物館所蔵

「成瀬家本」に見られる主要場面



※平成 28 年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆



※平成 28 年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆

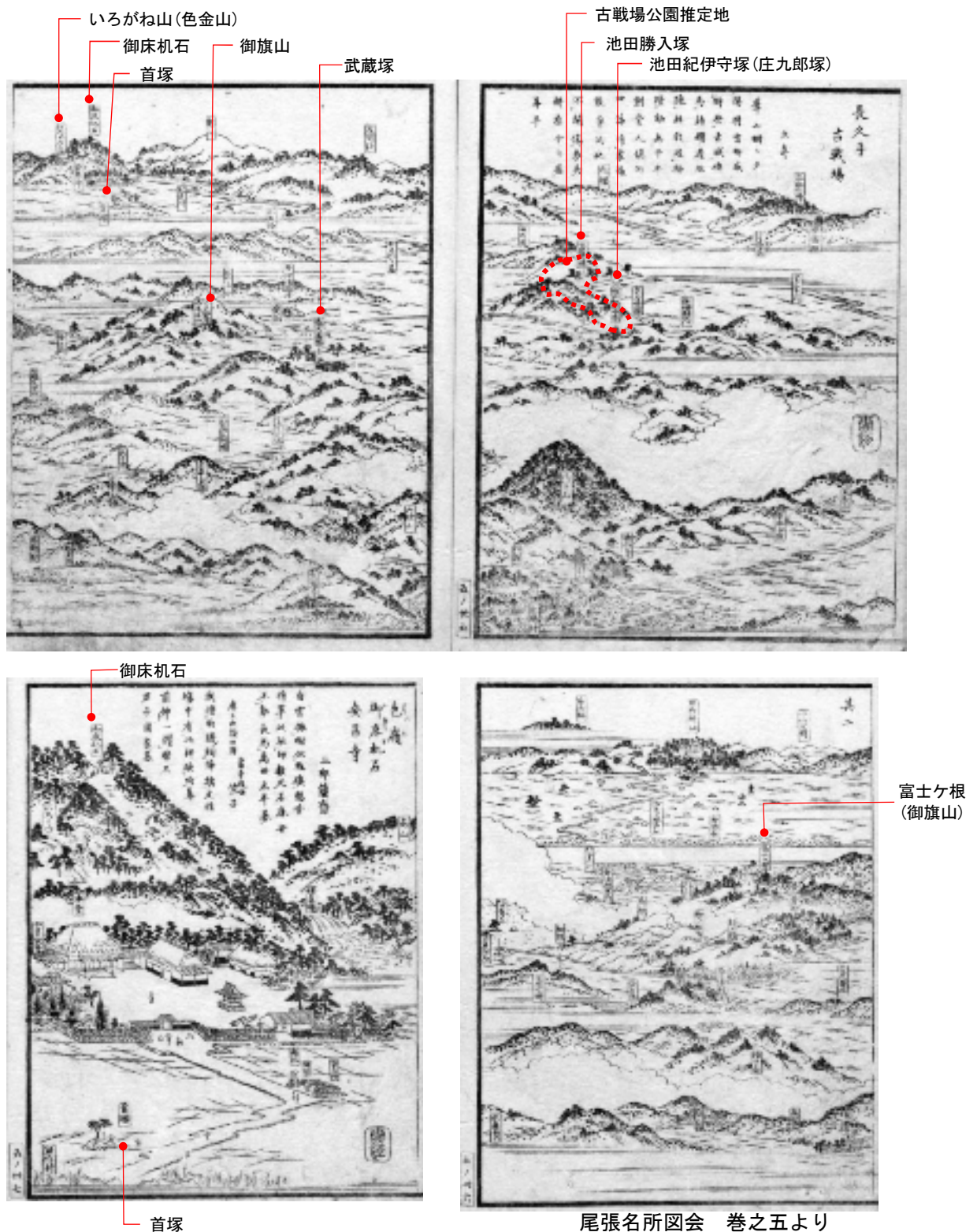
『長久手合戦覚書』には、「御合戦場は中に通有て、道より御左の方は田、御右の方は路切にため池有、それより御右の方はくほみにて是場よく、前後野原にて小松少々有之よし」と描写されている。下図は、現在の長久手市の様子である。



(平成 29 年 12 月撮影)

イ 絵図など

『尾張名所図会』は、天保12年(1841)に成立されたもので、尾張の名勝、古跡、風俗、名産、神社仏閣などを絵と平易な文章で説明した地誌である。前編は名古屋・熱田を含む愛知郡・知多郡・海東郡・海西郡の四郡を収録する。長久手市関係は巻之5に散見する。その中で古戦場に関する絵図には、以下のようなものがある。





尾張名所図会附録 三より

名所見物という感覚が、いつ頃から一般に生じたものか、定かではないが、江戸時代に入ると、神社仏閣参詣だけでなく歴史の現場を見て、史的事実を巡りながら景観も楽しむことが行われていた。長久手における史料としては、『鸚鵡籠中記』や『尾張徇行記』、『尾張名所図会』があり、見物コースとしては古戦場全体を俯瞰し、勝入塚、武蔵塚などをたどって色金山の麓にある安昌寺を訪ねるといったことが行われていた。

① 「尾州愛知郡長久手之邑」絵図 寛政5年(1793)

江戸時代に古戦場を訪れる多くの尾張藩士に供覧され、絵図で見所やその区間の距離等が書かれている。



寛政5年(1793)

② 長湫古戦場之図 天保11年(1840)



天保11年(1840)

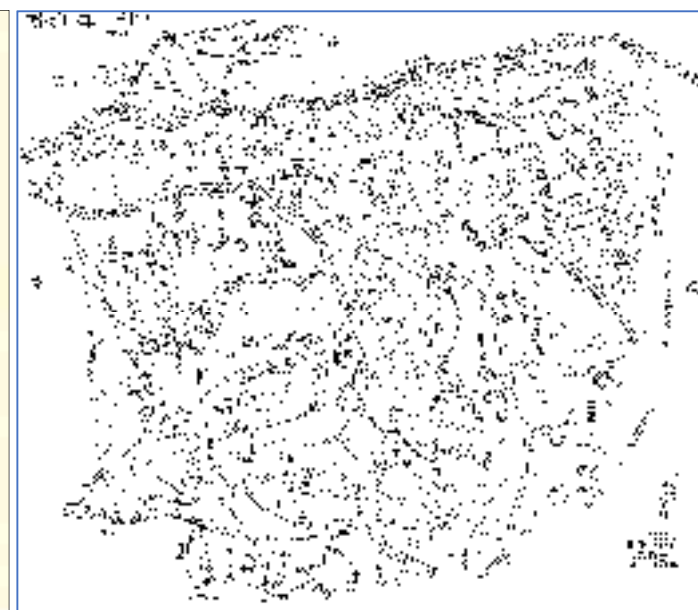
③ 近世村絵図

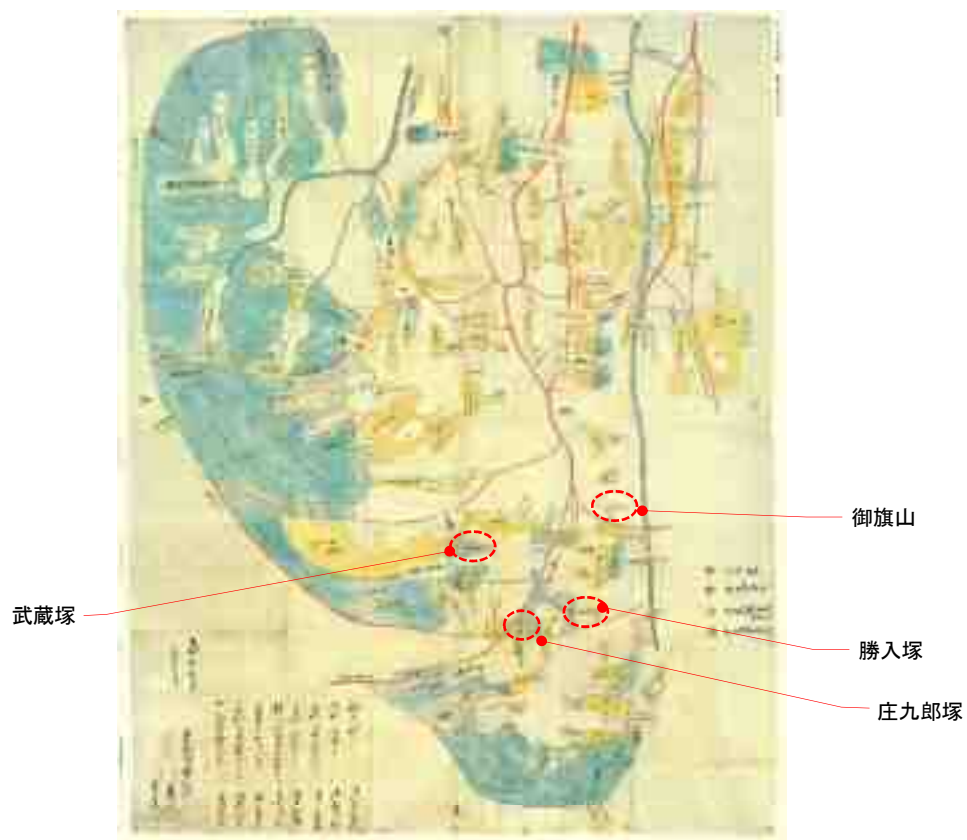


岩作村 万延元年（1860）



長久手村 年不詳

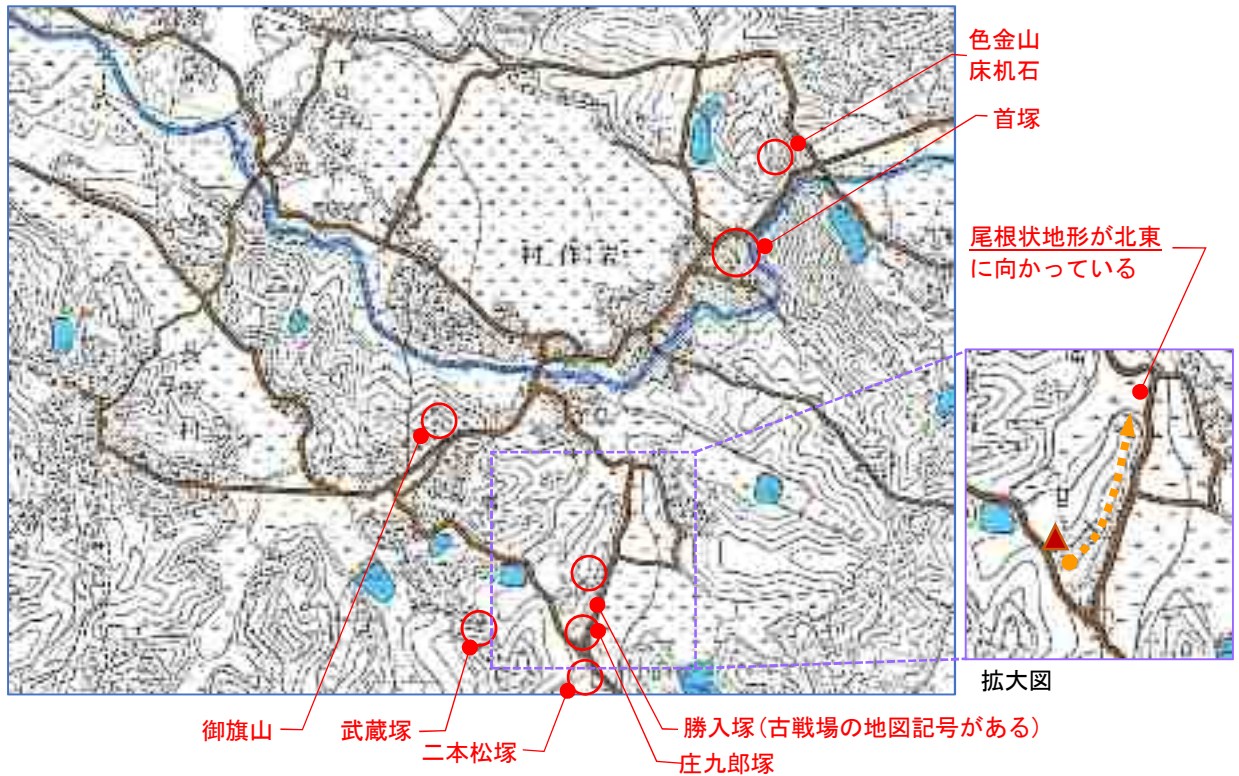




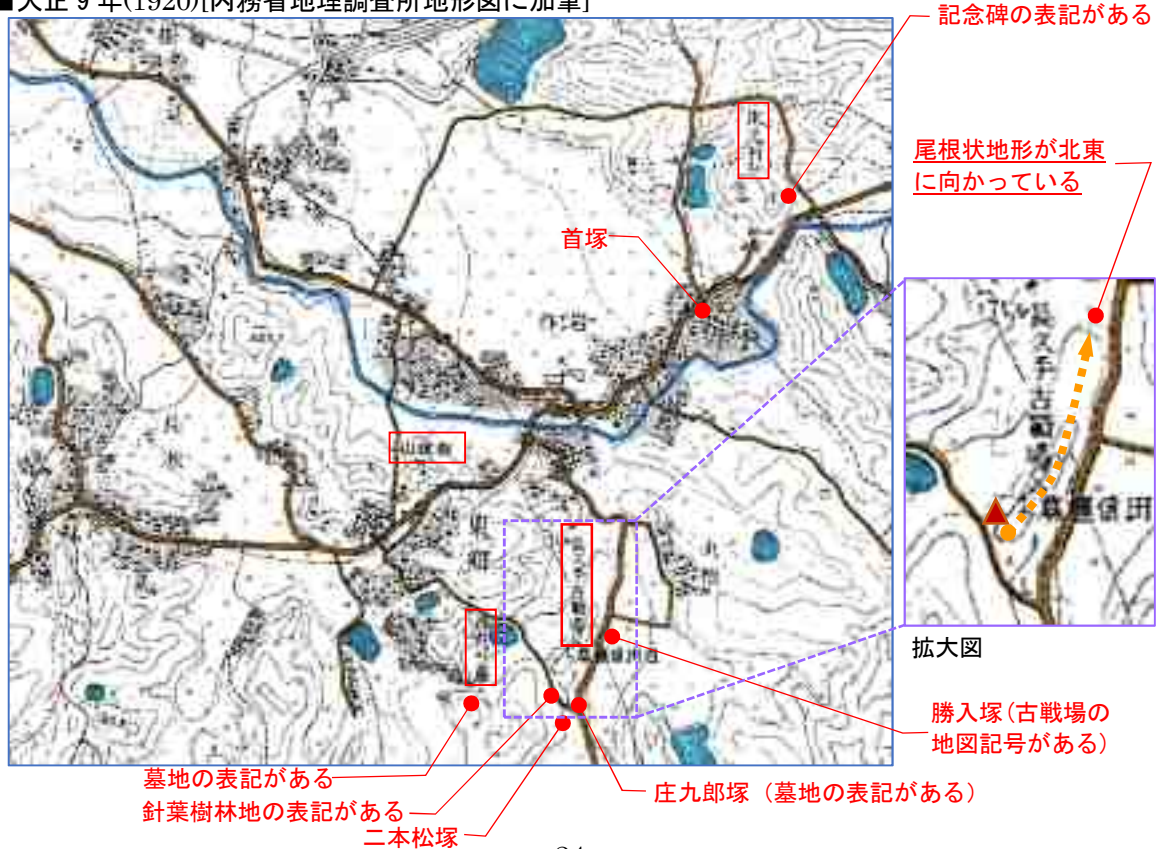
(3) 地形図に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を明治、大正、昭和と比較して、本来の地形がどうであったか、いつ頃から現在の姿になったかを見ていく。

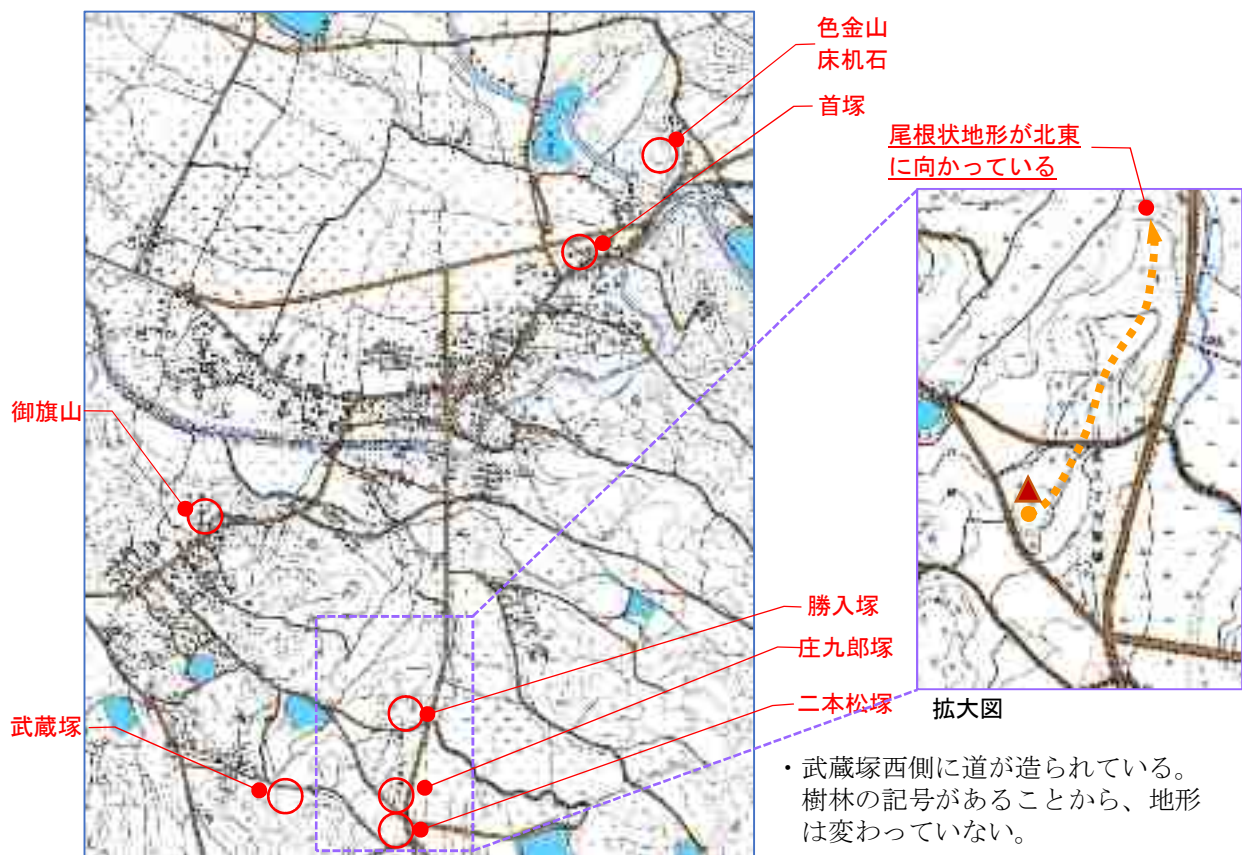
■明治 44 年(1911)[大日本帝国陸地測量部地形図に加筆]



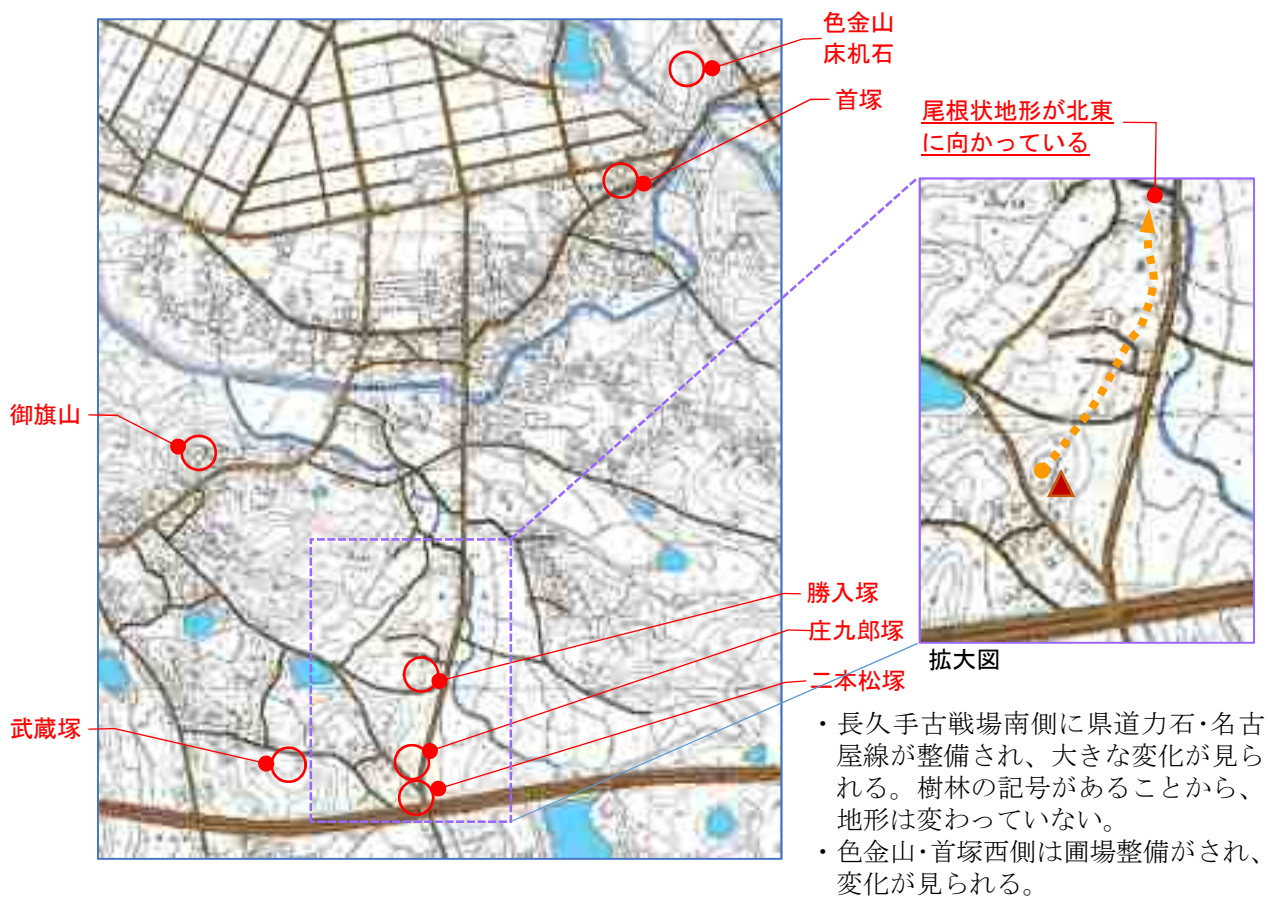
■大正 9 年(1920)[内務省地理調査所地形図に加筆]



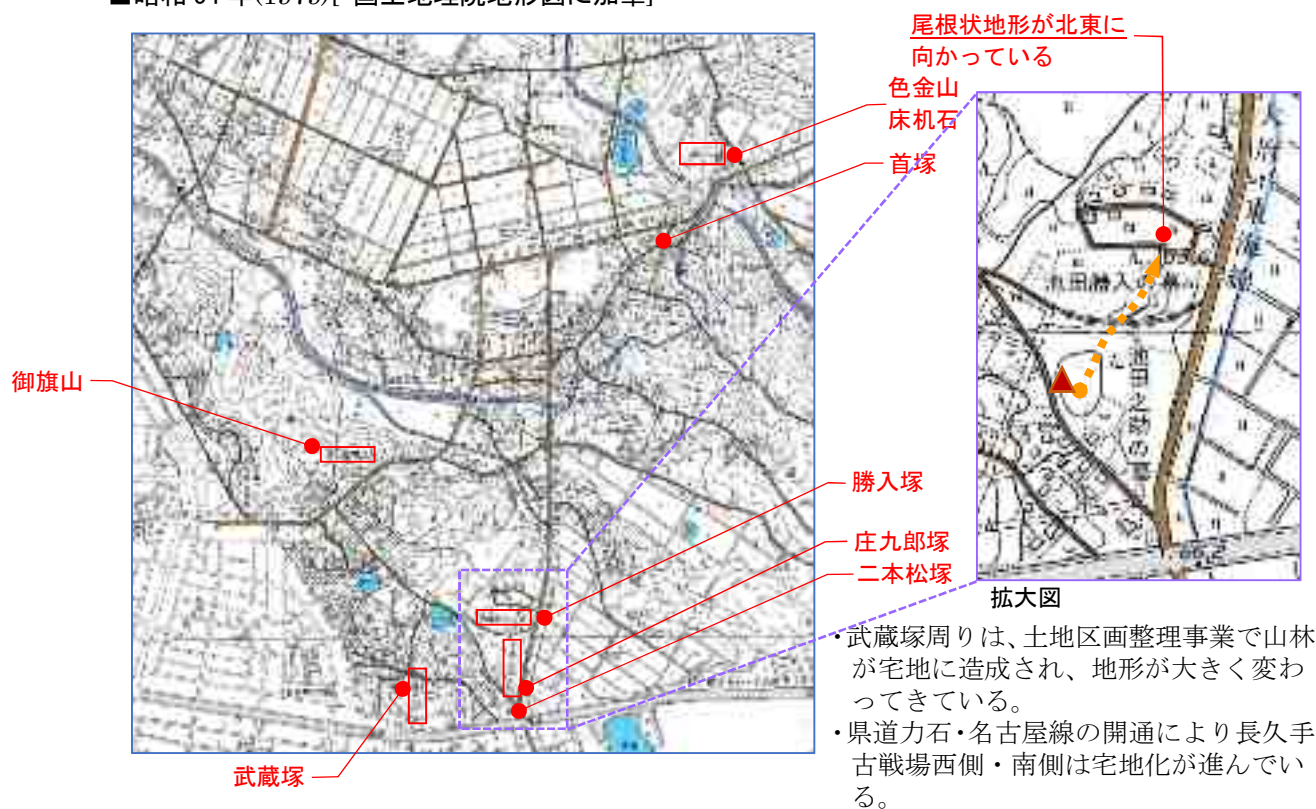
■昭和 38 年(1963)[長久手村全図に加筆]



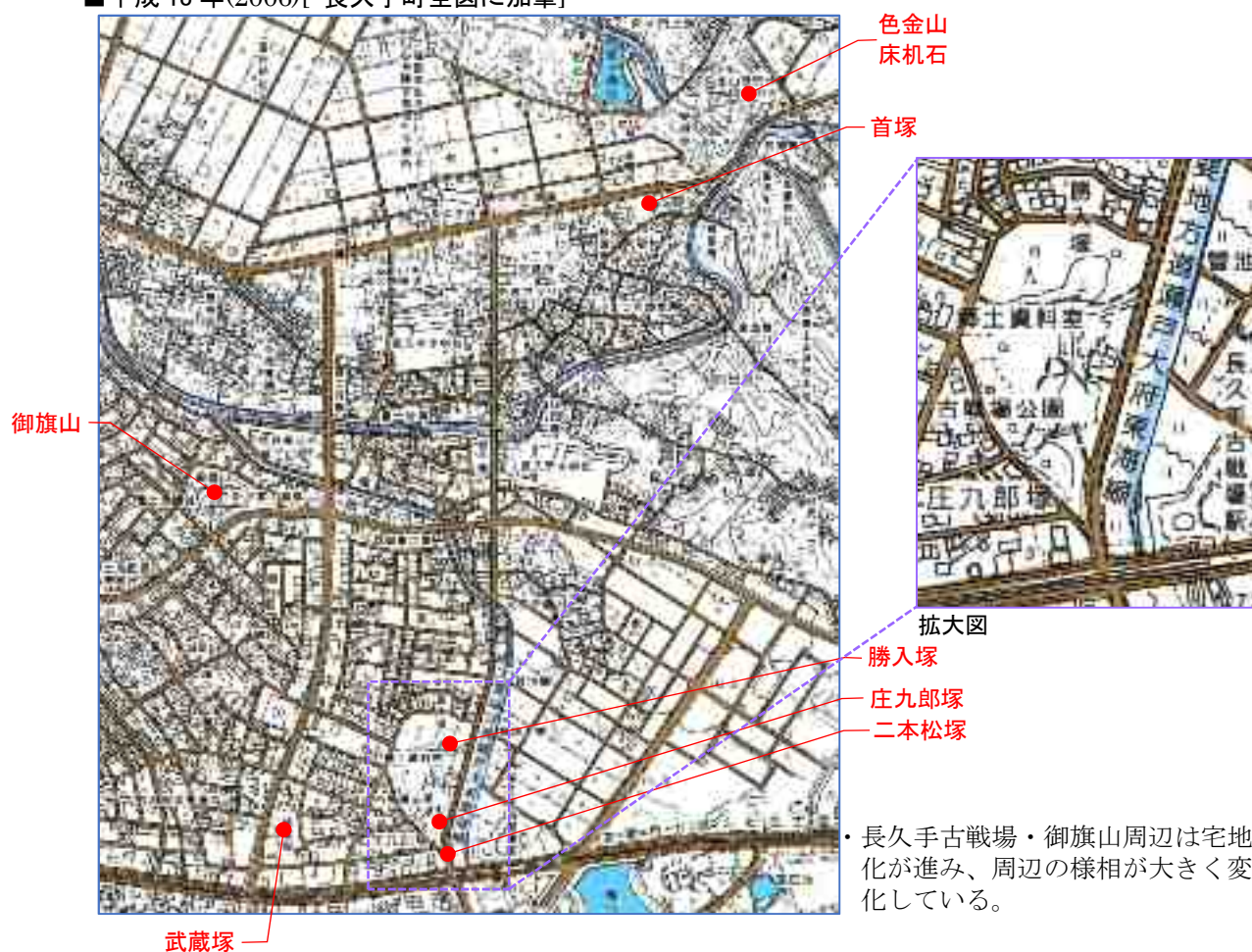
■昭和 47 年(1972)[国土地理院地形図に加筆]



■昭和 54 年(1979)[国土地理院地形図に加筆]



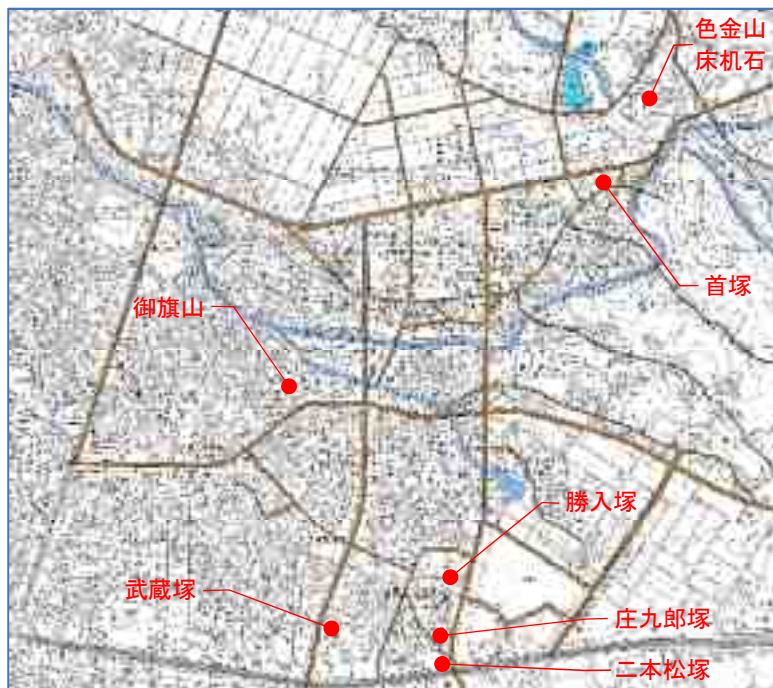
■平成 18 年(2006)[長久手町全図に加筆]



■平成 25 年(2013)[長久手市]



■平成 28 年(2016)都市計画基本図



■平成 28 年(2016)現況測量図



- ・明治以降の地形図から見られる尾根線は、現在も残っているのが確認できる。
- ・明治以降の地形図を比較すると尾根の頂上は、現在も変わっていないのが確認できる。
- ・史跡地に接する西側の道路は、明治時代の地形図にも表記されている。
- ・長久手古戦場東側は、土地区画整理事業が進み、周辺の様相が大きく変化している。

区画整理前の地籍図

勝入塚と御旗山は長湫中部土地区画整理事業、庄九郎塚、二本松塚、武蔵塚は長湫東部土地区画整理事業により周辺部が大きく変わった。

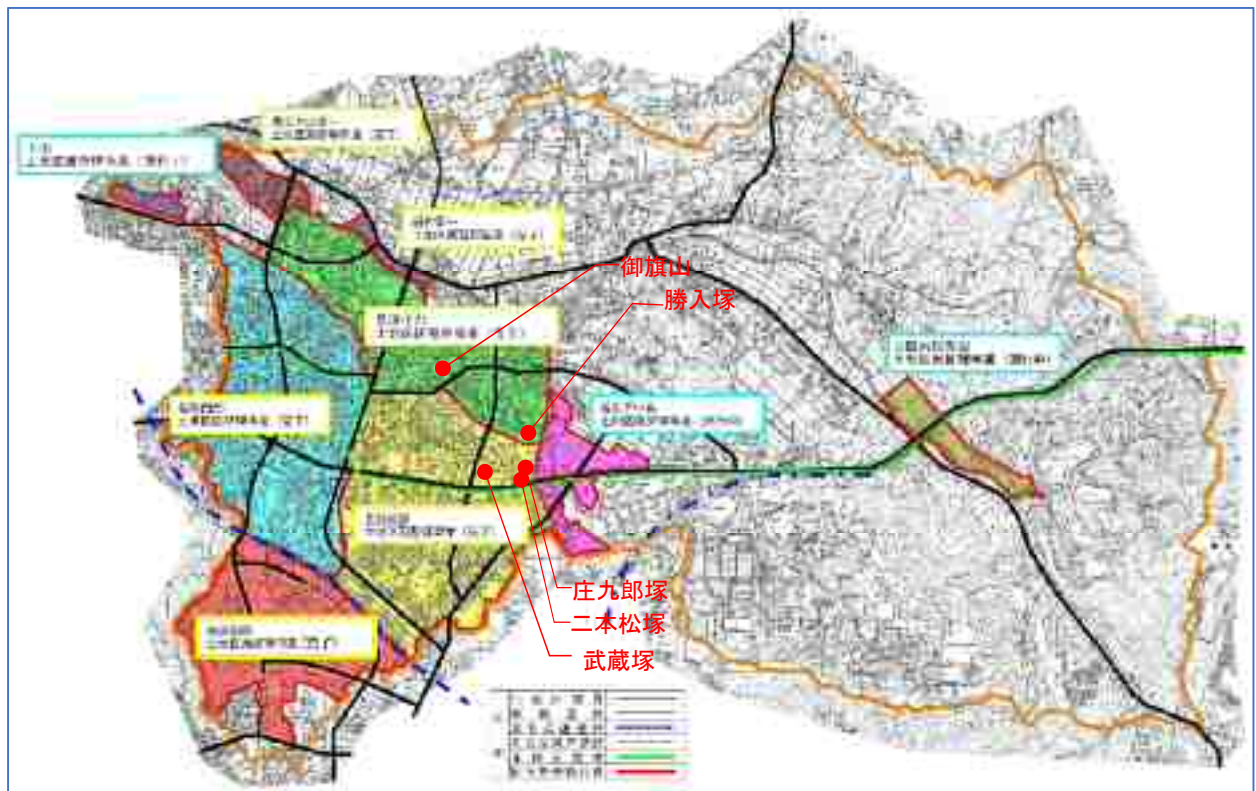
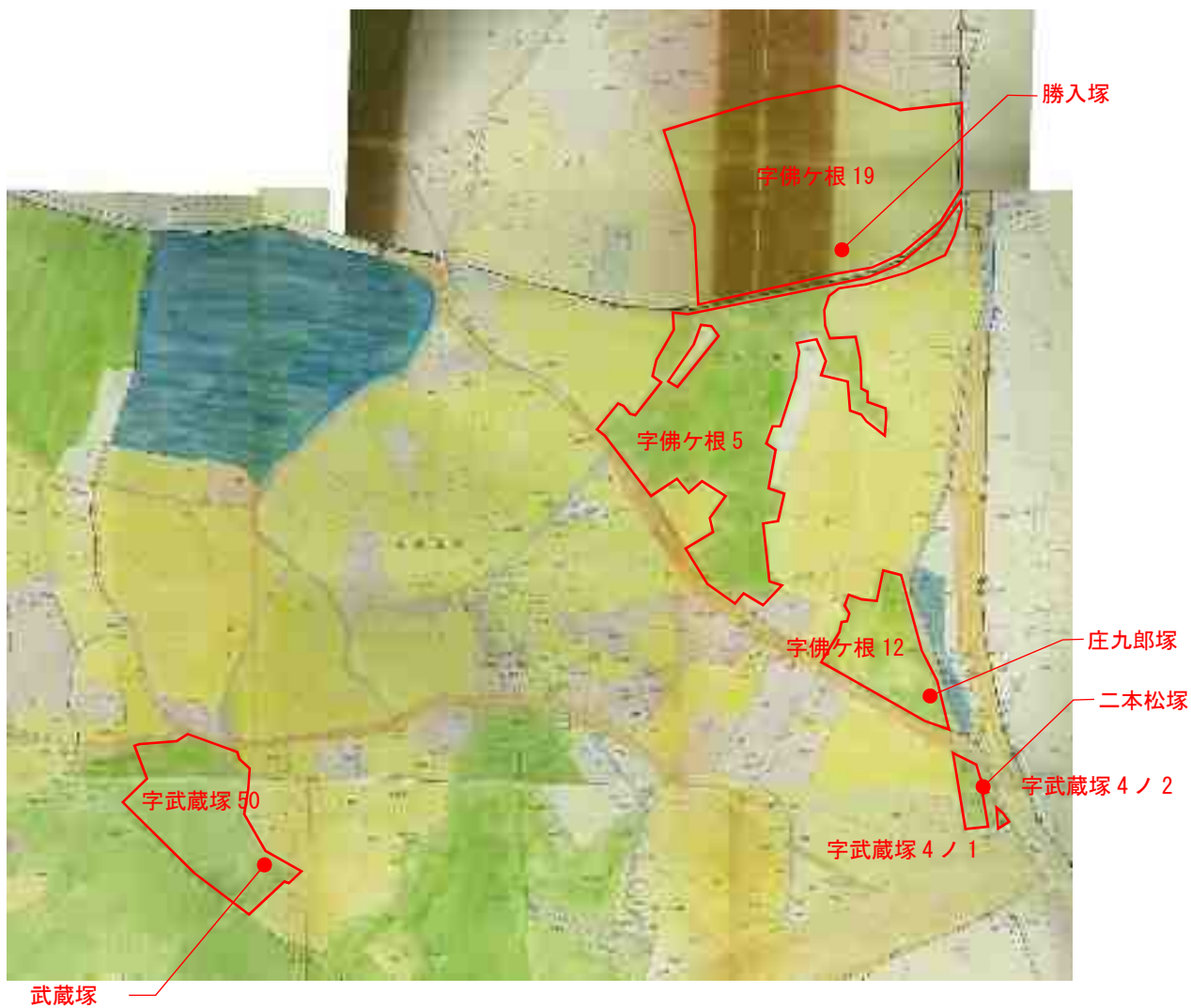


図 一 土地区画整理地区位置図

表一 土地区画整理地区の概要

事業名	面積(ha)	施工認可期間	計画人口(人)	計画戸数(戸)	進捗	史跡関係箇所
長湫西部	158.9	昭和47～平成12年度	14,847	3,907	完了	完了
長湫東部	163.5	昭和48～平成5年度	14,463	3,806	完了	庄九郎塚・武蔵塚・二本松塚
下山第一	13.6	昭和53～昭和56年度	1,261	332	完了	完了
長湫中部	106.7	昭和56～平成16年度	8,822	2,757	完了	勝入塚・御旗山
岩作第一	4.7	平成4～平成15年度	342	114	完了	完了
長湫南部	98.2	平成10～平成19年度	5,100	1,910	完了	完了
長久手中央	27.4	平成22～平成31年度	1,730	692	施行中	施行中
公園西駅周辺	20.6	平成25～平成35年度	1,200	480	施行中	施行中
下山	5.5	平成25～平成32年度	450	180	施行中	施行中



区画整理前の地籍図

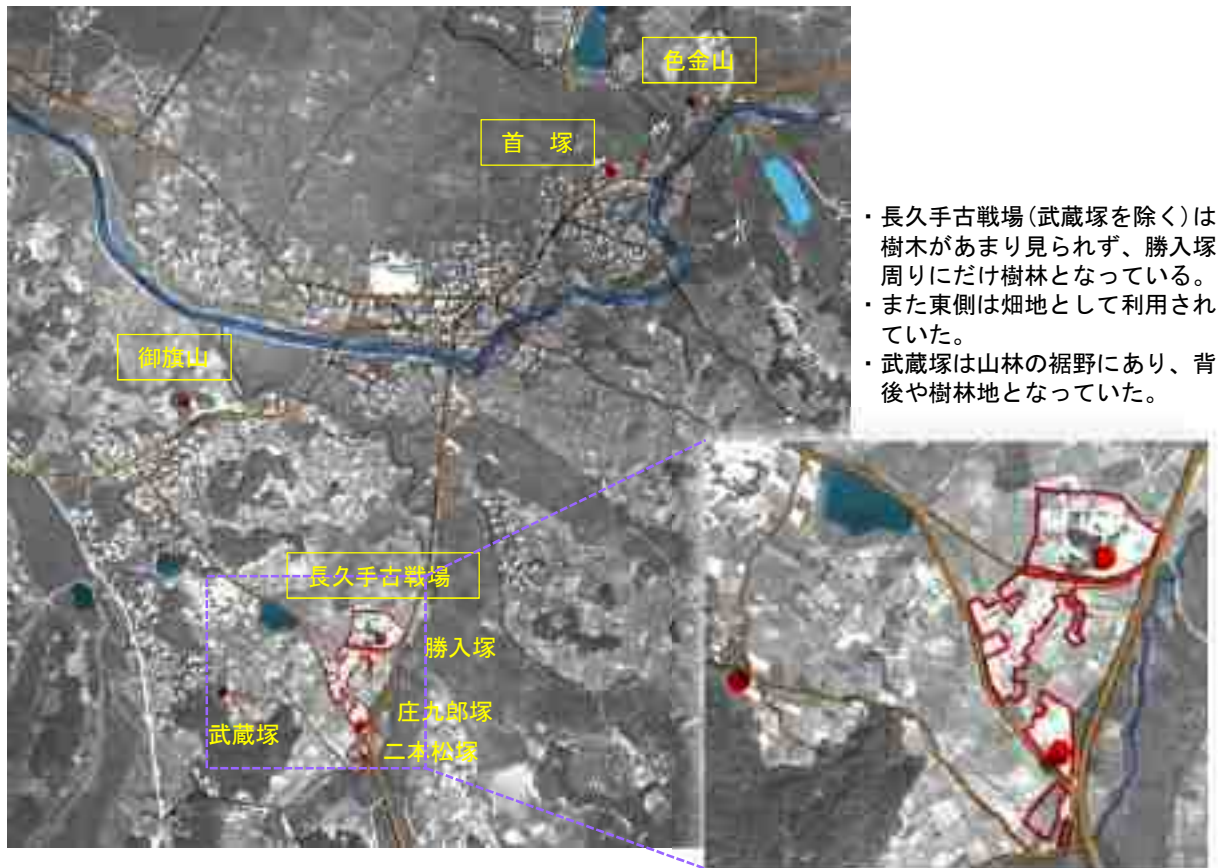


区画整理前の地籍図

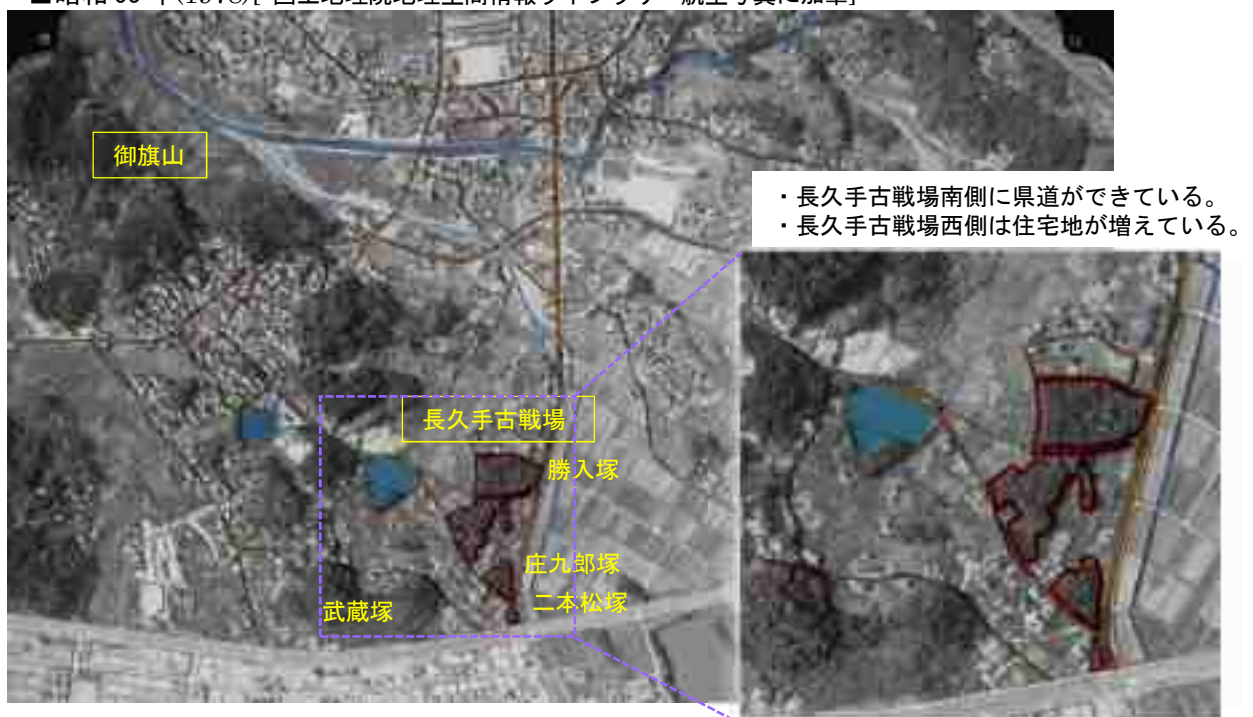
(4) 写真に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を昭和と平成時代の航空写真で比較した。

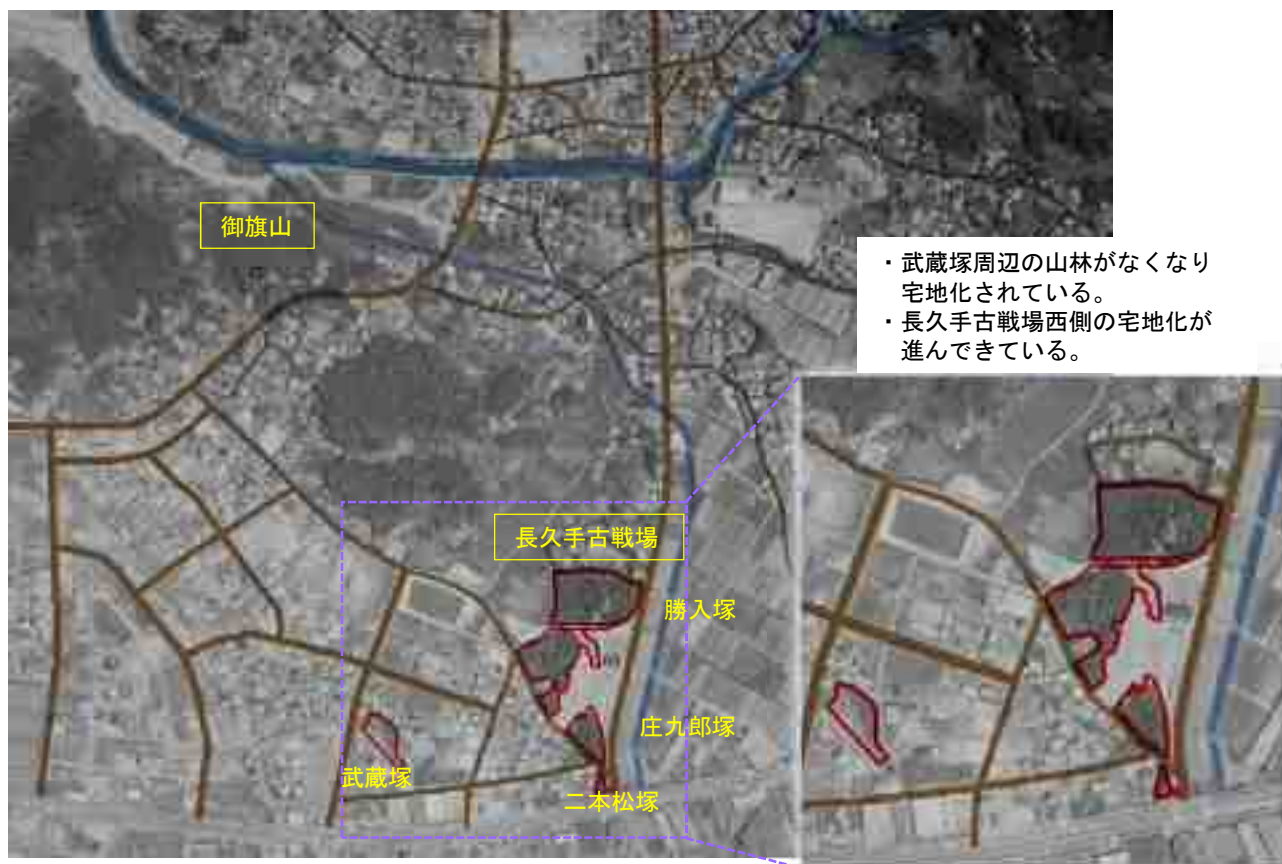
■昭和 23 年(1948)[国土地理院地理空間情報ライブラリー 米軍撮影航空写真に加筆]



■昭和 53 年(1978)[国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■昭和 60 年(1985)[国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■昭和 62 年(1985) 国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■平成 2 年(1990) [国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■平成 28 年(2016) [ケー・ケー・ルース航空写真に加筆]



■石碑で見る変化【 勝入塚 】

● 明治 43 年頃

(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



- ・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られず、見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 大正 11 年(長久手古戦場絵はがきより)



- ・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られない。石碑の周りが石垣に変わっている。
- ・背後の山並みが映っており、見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 平成 28 年撮影



● 昭和 20 年代

(平成 20 年度長久手市郷土資料室特別展より)



- ・明治 43 年写真の松が枯れている。
- ・周りに樹木が見られない。

● 昭和 61 年

(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくくなっている。

- ・石碑が樹木で見えなくなっている。

【 庄九郎塚 】

- 明治 43 年頃
（「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社]）



- 昭和 61 年
（長久手町史 資料編三 遺跡と
考古資料より）



- ・石碑入口前に松が植えられているだけで、
周辺に樹木はあまり見られない。
- ・石碑内に松の幼木が見られる。
- ・勝入塚同様、見晴らしの優れた場所であっ
たようだ。

- ・石碑内に多くの樹木が見られる。



- 平成 28 年撮影



- ・石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくく
なっている。

【 武蔵塚 】

- 明治 43 年頃
(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



・ 背後は山林となっている。

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・ 明治 43 年頃とあまり変わっていない。

- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



・ 背後の山林が区画整理で無くなって、右側にフェンスが出来ている。

- 平成 28 年撮影



・ 背後にツバキの生垣が植えられている。
・ 樹木が繁茂し石碑が見えにくくなっている。



【 御旗山 】

- 明治 43 年頃
(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



- ・ 左上に大きな松の木がある。
- ・ 背後に山並みが見える。



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と
考古資料より)



- ・ 背後は樹林となっている。



- 平成 28 年撮影



- ・ 樹間から遠くの景色がわずかに見える。

【首 塚】

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・石碑周りもすっきりしており、石碑が良く見える。



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と
考古資料より)



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えなくなっている。

- 平成 28 年撮影



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えにくくなっている。

【 色金山 】

- 明治 43 年頃
(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010 年[樹林社])



・周囲に樹木が見られず、開けた場所であったようだ。

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



- ・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
- ・周辺が開けている。

- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
- ・周辺が樹木で囲まれている。

色金山歴史公園整備にあたり、平成 7 年に現状変更の許可を経ている。

現状変更等の内容及び実施の方法

柵、石組等を撤去し、玉石縁石、植樹、及び史跡案内板を施す。

(市内部文書より)

- 平成 28 年撮影



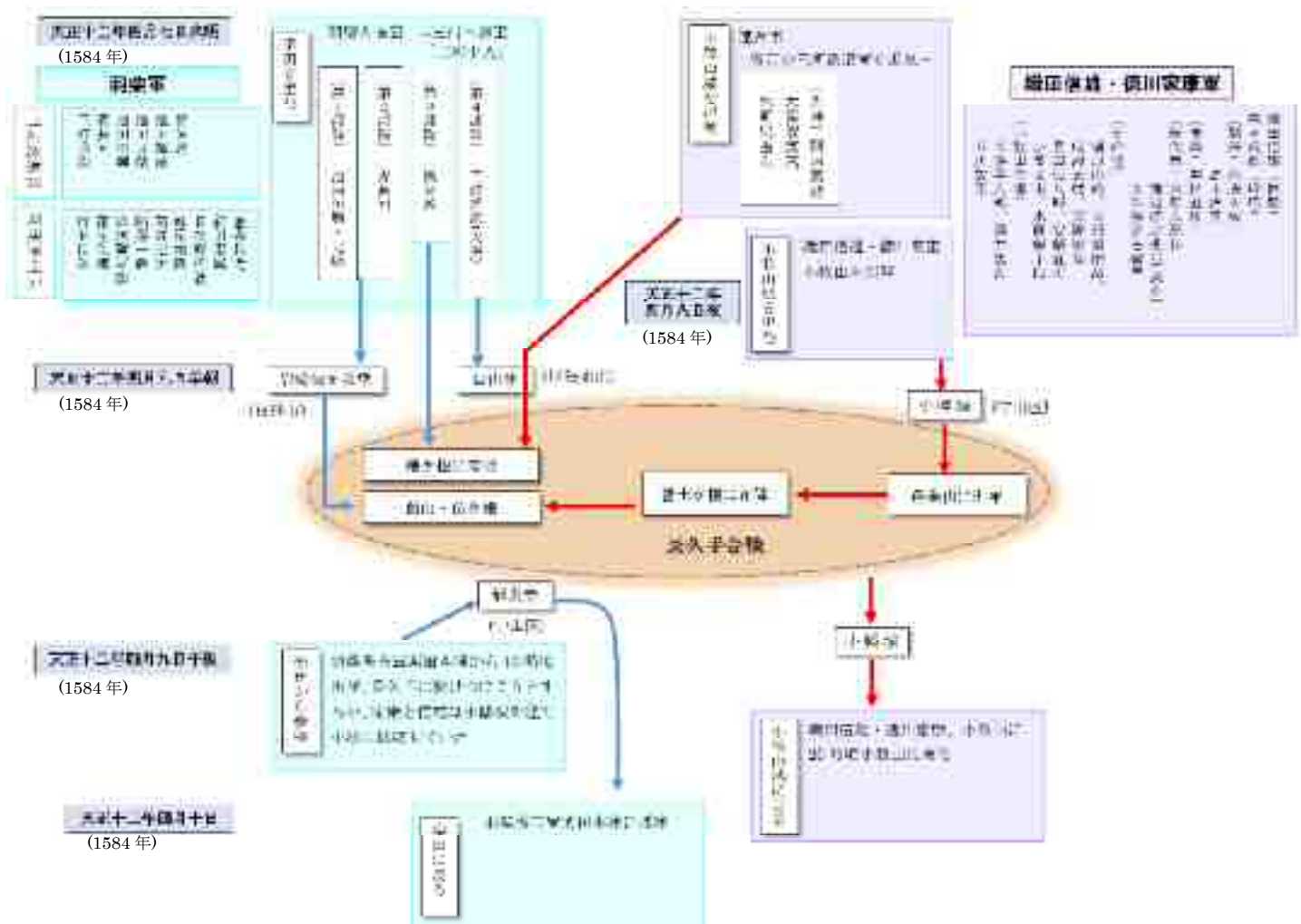
- ・背後の樹木が繁茂し、閉塞感を感じる。

(5) 史料などに見られる「長久手合戦」の様相

「長久手合戦」の状況を、第2章で取り上げた「合戦図屏風」や「陣立図」などの絵画的史料を用い、時系列上に整理していく。また、合戦の場となった現在の長久手古戦場周辺と、合戦の布陣とを比べてみる。

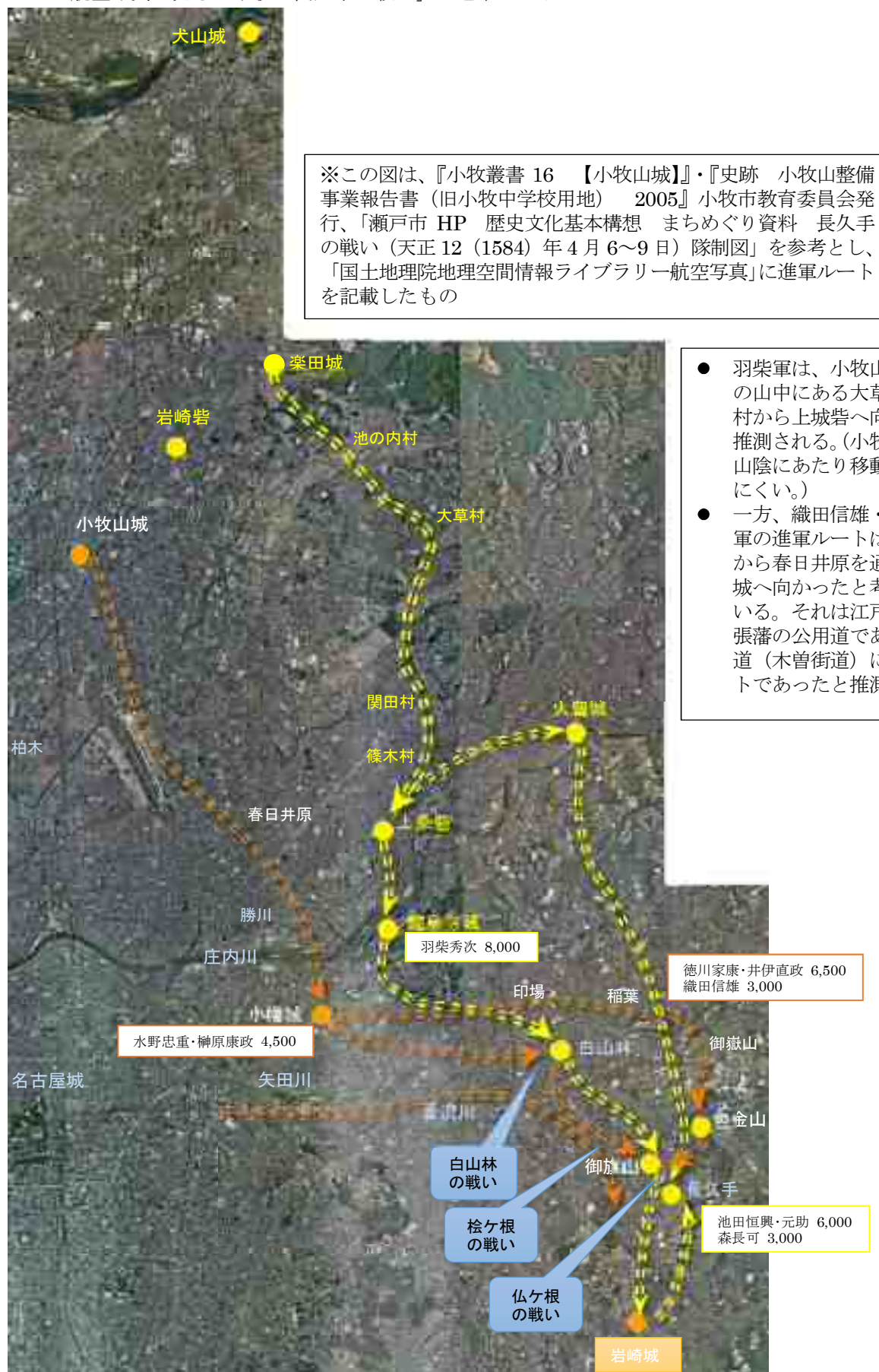
① 合戦の布陣と進軍ルート

■ 「小牧・長久手の戦い」の概要



集英社ウィークリー・コレクション「週刊 絵で見る日本史 第6号」(2010 12/9号)
 “小牧・長久手合戦図屏風” 高橋修(茨城大学教授)指導を参考とし、作成した。

■ 航空写真で見る「小牧・長久手の戦い」の進軍ルート



● 参考資料

- 「史跡 小牧山整備事業
報告書
(旧小牧中学校用地) 2005」
P16 より

● 小牧叢書 16 より (P78)

4 月 7 日には二宮から池の内村、大草村、関田村、篠木村、柏井を通過して上条村に入りここに砦を築いて宿営した。その広さは二里にも及んだという。

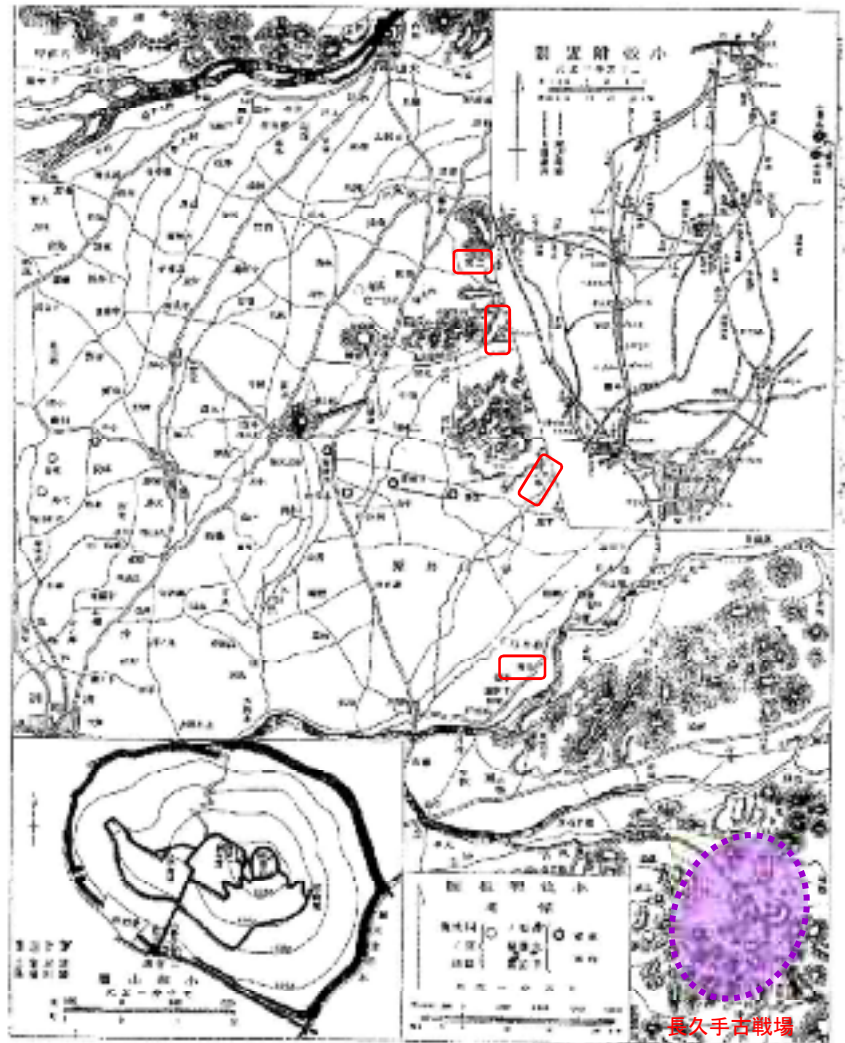


図10 徳川参謀所刊行「小牧山」付属地図（大正5年）

- 歴史文化基本構想(瀬戸市 HP より)
まちめぐり資料
長久手の戦い（天正 12（1584）年 4 月
6～9 日）隊制図より



図11 長久手の戦い（天正12（1584）年4月6～9日）隊制図

② 「小牧長久手合戦図屏風」(公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵)で見る長久手合戦

「小牧・長久手の戦い」、特に「長久手合戦」の様子を描いた合戦図屏風が複数存在する。

その中でも最も早い時期に成立したといわれ、他の写本の基となったといわれるものに公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」がある。

この屏風は、合戦に参加した成瀬家初代正成の活躍を描いたもので、成立は17世紀半ば、二代目政虎の頃に制作されたものである。

屏風の構成は、一扇から四扇までは徳川家康の本陣や井伊隊など徳川軍の進撃を描き、五扇、六扇に羽柴軍の不利な戦いと敗走を描いている。四扇に秀吉方武将池田恒興(勝入)が家康方武将長田伝八郎に討ち取られた場面、五扇に秀吉方武将森長可が眉間を撃ち抜かれ落馬する場面、六扇には秀吉方武将池田庄九郎(元助)が家康方武将安藤直次に今にも討ち取られそうな様子や、池田隊・森隊の敗走場面などが描かれている。



■ 時系列で見る小牧長久手合戦図屏風（公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵）

日時や戦いの様子は、集英社ウィークリー・コレクション（2010 12/9号）
「週刊 絵で見る日本史 第6号」を参考とした

四月九日午前8時頃

色金山から富士ヶ根に着陣



四月九日午前8時頃
前山と仏ヶ根に布陣

左翼
井伊直政、内藤正成、高木
清秀その北方を織田信雄



合戦の早い時間 堀秀政陣敗れる



森長可軍は壊滅
(長可、眉間から血を
流し討死)



四月九日午前10時頃

先鋒井伊直政が家康から預け
られた20人組鉄砲頭と鉄砲
隊の鉄砲300挺で応戦



堀秀政を打ち破った家康軍



四月九日午前10時から11時頃

敗走する池田・森軍



池田恒興（勝入）斬首



池田庄九郎（元助）討たれる



③ 陣立図などで見られる長久手合戦

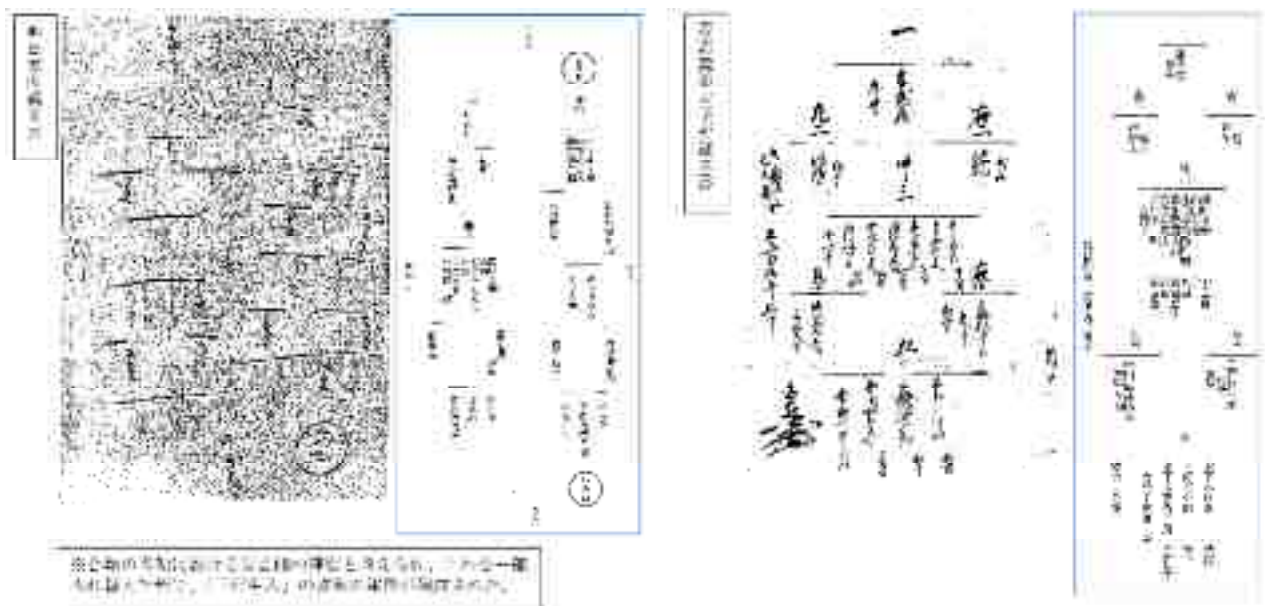
この合戦の経過を示す地図の中でも特に大きく、絵や文字の情報が豊富な地図として、享保 18 年（1733）に作られた「小牧御陣御進発之図」（和歌山城管理事務所所蔵）がある。

■ 「小牧御陣御進発之図」（和歌山城管理事務所所蔵） 「愛知県史 資料編 12 織豊 2」より



また、陣立書は特定の合戦を想定して、自己の軍勢を最も効果的に配置した作戦指令書といえるべきもので、これを制定した者の花押または印章が据えられているのが通例で、様式としては「文章」の一種である。天正 12 年（1584）以前の中世の合戦では陣立書は作成されていないと考えられ、天正 12 年（1584）の「長久手合戦」の際に、羽柴秀吉側が作成したのが始めと考えられる。（三鬼清一郎） 織田信長が發布した文書の中にも陣立書はない。また、徳川家康・織田信雄連合軍側が作成した陣立書は知られていない。

■ 小牧長久手の戦い 陣立書 （長久手町史を参考に編集）



これらの図の位置情報に前出「小牧・長久手合戦図屏風」の絵画的シーンを重ねることで、合戦の状況を見てみる。

■ 小牧御陣御進発之図（和歌山城管理事務所蔵）
と小牧・長久手合戦図屏風（公益財団法人犬山城白帝文庫蔵）

※図中の文字翻刻(黄文字)は、額田雅裕
「小牧御陣御進発之図の記載内容に
ついて」を参考とした。

新築された越田(奥(墨人))



田原信興軍の足跡表



新築された森長可



森氏武時と戦う徳川軍兵士



註) この図は、集英社ウィークリー・コレクション「週刊 絵で見る日本史 第6号」(2010 12/9号)を参考に、屏風図に描かれている場所を推測し、「小牧御陣御進発之図」での布陣位置に当てはめたもの。

井伊直親(五千代)らの長軍に表い、築かれた城館



徳川軍進軍



小牧・長久手合戦図屏風の位置情報

半谷直成、赤木智秀隊



徳川家康と陣舞原山

越田山丸山(元朝)全宮つ大徳院

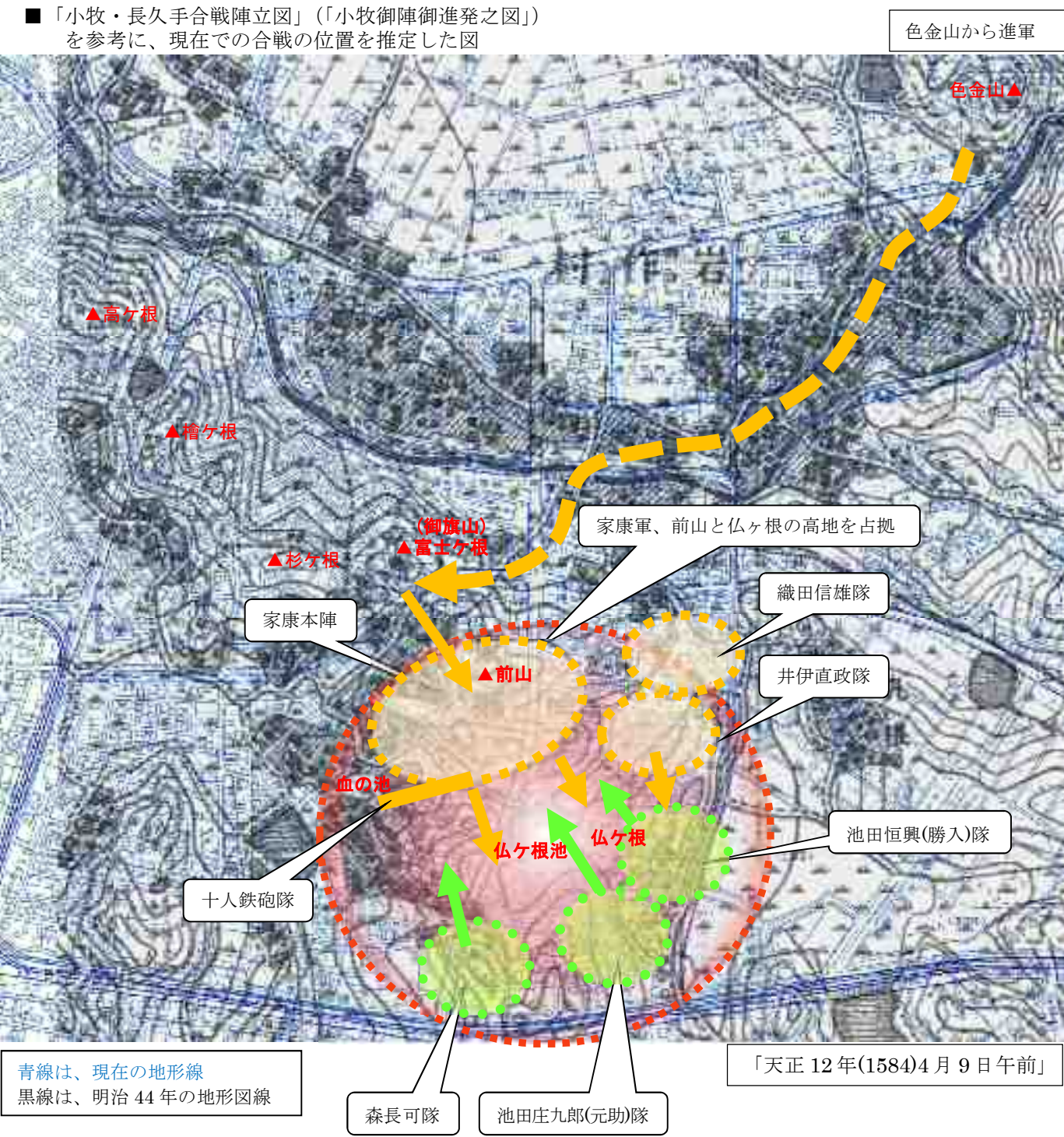
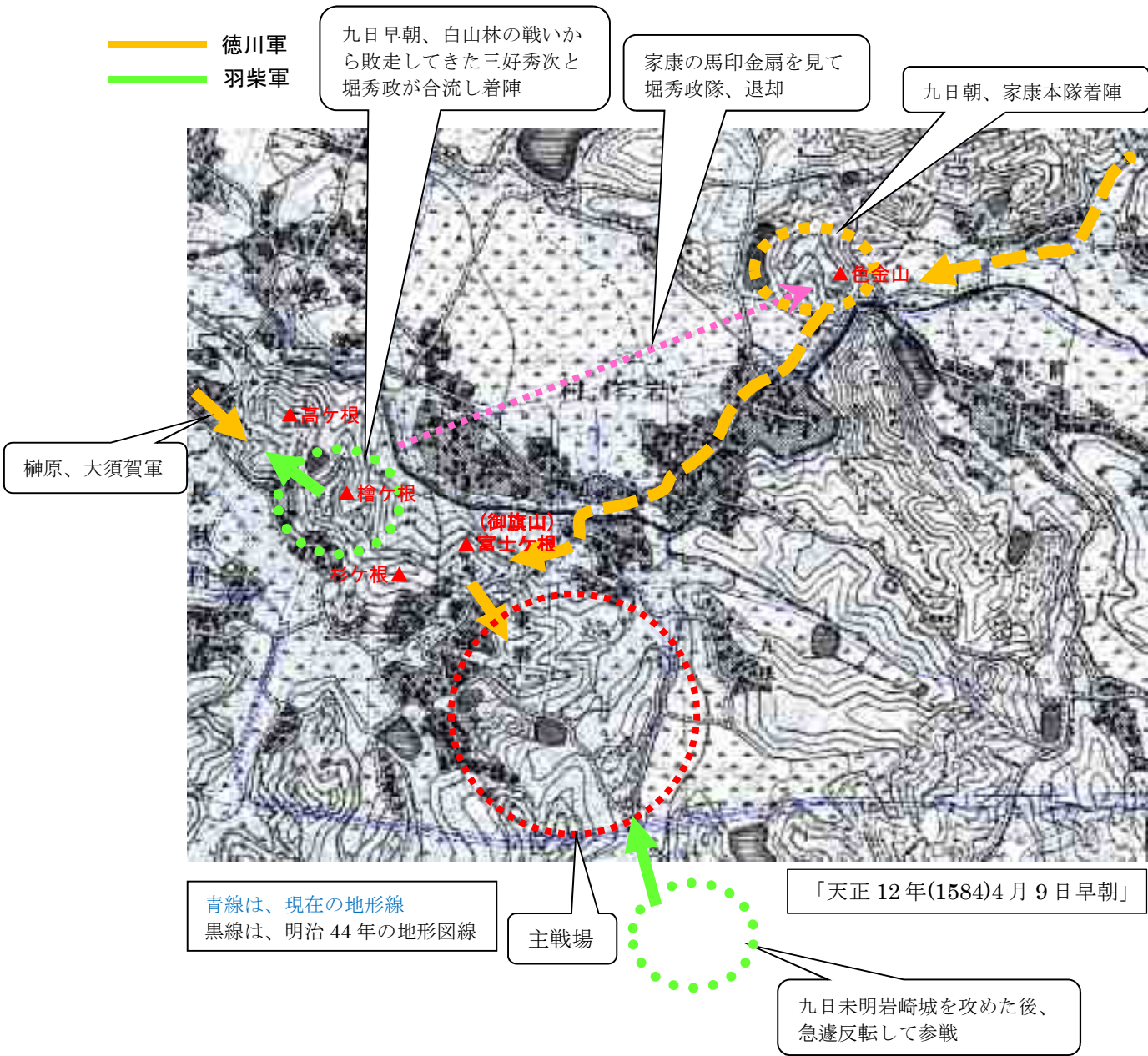


森氏軍は、新田と松平の戦いを占領した。大徳寺井伊直親(五千代)は、北方各隊の出陣の意で出陣した。
森氏軍は、越田山と森氏が占領した。右翼は井伊直親と森氏の長男大徳(記伊主正)が陣を構えた。
森氏は、越田(依々松山・アノネリ)と森氏が陣を構えて陣取る。



④ 現在の地形図から推定される長久手合戦の様相

前頁までに記載した位置情報を、現況地形図上に投影すると下図のようになる。
合戦時の地名や地形がわかりやすいように、入手可能な最古地図である明治 44 年（1911）地形図を現況図と重ね合わせたものを使用した。



2. 指定に至る経緯

史跡長久手古戦場は、史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により昭和 14 年（1939）9 月 7 日に長久手古戦場及び御旗山、首塚、色金山が、以下の理由（説明）により国史跡に指定された。

- ・天正 12 年（1584）小牧・長久手の戦いの主戦場にして激戦地点であったと認められること。
- ・羽柴秀吉の先鋒池田恒興（勝入）、之助（庄九郎）父子・森長可と徳川家康軍が激戦したところ。
- ・字仏ヶ根に池田恒興、その南方の一段低い地点の字武蔵塚に池田之助、その西方約二町（約 220m）同字地内に森長可の墓があり、いずれも明和 8 年（1771）12 月建設の石標及び各家子孫の建設による顕彰の石碑があること。
- ・字城屋敷は池田方陣地と伝えられ、鎧掛の松と呼ばれた老松があったが枯損のため今は取り除かれていること。
- ・御旗山は、富士浦に高さ約 300 尺（約 90m）の独立の小山で眺望に富み、家康の牙旗を立てたところと伝えられ、頂上の富士社社殿の傍にその由来が記された石標があること。
- ・首塚は、大字岩作の人家に囲まれた中に石垣を組み、宝永 3 年（1706）4 月建設の石標、明治 43 年（1910）4 月建設の首塚碑があること。
- ・色金山は、首塚の北約 1 町（約 110m）安昌寺の後方にある丘陵であり、南西に激戦地を望め、丘上にある 3 個の自然石は床机石と呼ばれ、家康が戦況展望の際に床机にかえたるものと伝えられ、宝永 3 年（1706）4 月建設の石標及び明治 43 年（1910）4 月建設の碑があること。

合戦後の江戸時代や明治、大正、昭和、平成と周辺の土地利用が大きく変わる中で、合戦当時の地形がなぜ残されているのか、また、なぜ各石標や顕彰碑が建てられ、現在も残されているかなどについては、『史蹟論』（羽賀祥二著）や『小牧・長久手の戦いの構造 戦場論上、下』（藤田達生編）に詳細な記述がある。この資料によると、

「小牧・長久手の戦い」は、徳川家における幕府体制の起源を示す戦争とみなされ、その意義が極めて高く評価されていた。特に徳川一門の有力大名尾張・紀伊両徳川家においては、初代義直・頼宣以来、当主が「小牧・長久手の戦い」に強い関心を持ち、資料収集にあたっていた。主君の戦争評価は家臣とも共有され、彼らが主体となって古戦場整備などの戦争顕彰が積極的に図られた。

（『小牧・長久手の戦いの構造 戦場論下』を参考）

その具体的内容は以下のとおりである。

- 尾張徳川家における「小牧・長久手の戦い」の研究と顕彰が行われた。
 - ・尾張徳川家初代徳川義直（家康の九男）は、藩領内に古戦場を持つ「小牧・長久手の戦い」に強い興味・関心を抱き、古老の士に長久手での戦闘に関する質問を寄せている。（『尾藩敬公事蹟』に記述がある）また、自ら古戦場に赴き、現地を踏査、その上で景行社に太刀・鳥目を寄進し、同社及び八幡宮に対して、長久手での戦闘があった4月8日・9日両日にわたる祈祷を行うよう命じている。
 - ・二代光友は、寛文8年（1668）、老中に「長久手古戦場之御吟味」を命じて、仏ヶ根・檜ヶ根等の戦場跡の山地に松を植え、代官は現況の絵図を作成し、また、道奉行福富三郎右衛門親茂が「戦場之図」を作成し、光代の「上覧」に入れた。更に福富は、合戦で戦死した池田父子と森長可の法名を刻んだ位牌を探し出し、それに偲頌を加えて刻んだ標柱を建立している。（『天正征伐記』や『長久手物語』（安昌寺蔵）などに記述がある）
 - ・三代綱誠の時代にも古戦場の整備事業を推進し、古戦場に石碑を建てるべく計画したが、途中で死去し実現しなかった。また、二代、三代と藩主に仕えた福富親茂は、宝永3年（1706）に色金山と首塚に石碑を建立した。（これが現在に残っている“宝永の碑”といわれるものである）
 - ・明和8年（1771）には、福富等の努力を受け継ぐべく、尾張藩勘定奉行人見右衛門・小納戸役赤林孫七郎が、勝入塚、庄九郎塚、武蔵塚にそれぞれ石柱建てた。（これが“明和の碑”といわれるものである）
- 紀伊徳川頼宣の「小牧・長久手の戦い」の研究
 - ・紀伊徳川家初代徳川頼宣（家康の十男）は、「小牧・長久手の戦い」の経過を簡条書きに書きまとめ、兵法に照らし合わせて論評を加えた合戦記『長久手合戦覚書』（内閣文庫蔵）を作成している。また、頼宣の命で編纂され、幕府と紀州東照宮に進上された徳川家康の一代記『創業記考異』がある。それに附随するものとして「小牧・長久手合戦陣立図」（小牧市小松寺蔵）は、合戦の両軍の展開を地形描写の上に落としこんだもので、縦80cm、横158cmと大きな配陣図である。〔※享保18年（1733）の「小牧御陣御進発之図」（和歌山城管理事務所蔵）は小松寺蔵本よりさらに発展した段階の合戦像を再構成している〕
 - 頼宣は、戦闘のあった4月9日を「佳節」と定め、毎年その日には「近習諸臣」を前に自らこの戦いについての講義を行っていた。

江戸時代には、尾張・紀州徳川家により上記のような合戦の研究や古戦場の保護、整備が行われてきた。明治時代に入ってから、敗戦した池田恒興を祖とする池田家子孫により顕彰碑が建てられた。（これらは“明治の碑”と呼ばれている）

顕彰碑は、恒興の十六世、孫で徳川慶喜の五男である貴族院議員侯爵池田仲博（輝博）が明治24年（1891）に建立したもので、勝入塚、庄九郎塚に残る。石碑建立の契機となったのは、『小牧・長久手の戦いの構造戦場論上、下』によると、明治17年（1884）に行われた恒興三百年祭で、祭典の主催者でかつての岡山藩主池田茂正が「殉難諸士及旧高功諸臣裔孫」に対して、広く詩文や和歌を募り編集するように命じ、これにより刊行されたのが『永懷余吟』（池田文庫）であり、それが石碑の建立へとつながったとされている。建立から7年後の明治31年（1898）には長久手建碑地を遺族に払い下げて欲し

いという願書が御料局長宛に出されている。（「長久手建碑払下之件 諸向未決」（池田家文庫））

- ・払下願の場所は、長湫村字仏ヶ根十九番地御料地、同五番地、同十二番地、字武蔵塚四番地御料地、字城屋敷九〇番地御料地であった。これらの住所は、史跡指定当初の住所と同じである。また御料地と書かれていることから、明治期には皇室所有の土地であったことがわかる。また、江戸時代には尾張藩林であったことが『尾張御行記』（寛政４年（1792）から文政５年（1822））や「愛知郡長久手村絵図」（嘉永２年（1849））の記述からうかがえる。

参考資料

右御料地之儀ハ、祖先池田勝入恒興、同紀伊守之助、其他臣下ノ者等、戦死セシ遺蹟且建碑地ニシテ、荒蕪崩壊湮滅ニ帰スルヲ患ヒ、古蹟保存ノ為メ、既ニ無期拝借仕候箇所モ有之候処、本年宮内省告示第一号御料地特売規定第二条第五ニ該当スルモノニ付、御払下ノ儀相願候条、御許可被成下度、右御料地図面相添此段奉願候也
明治三十一年二月

東京府武蔵国南葛飾郡寺島村大字寺嶋千二百三拾七番地
東京府華族 侯爵池田仲博

御料局長男爵岩村通俊殿

3. 指定の状況

（１）指定告示等

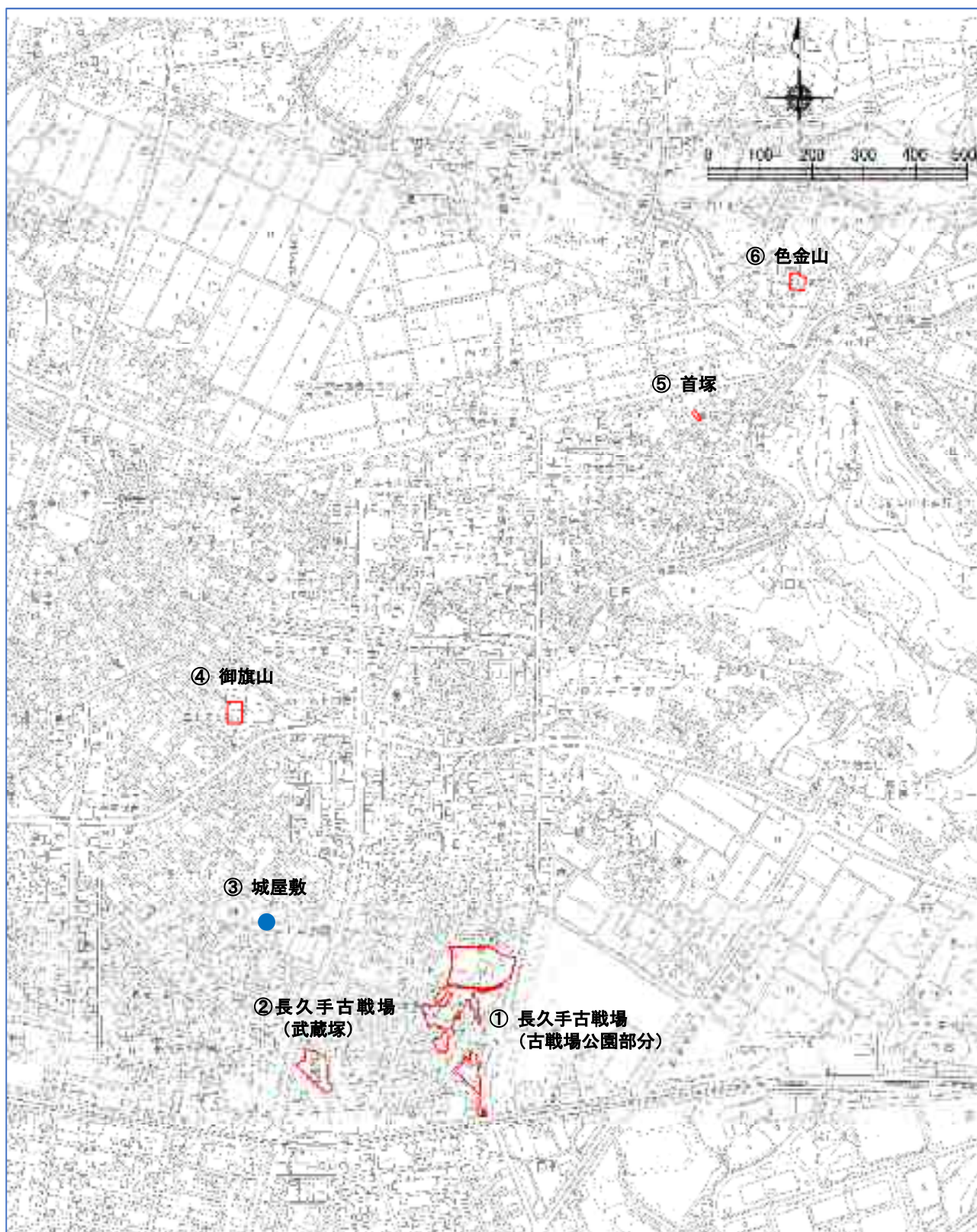
① 指定告示

昭和 14 年（1939）9 月 7 日、文部省告示第四百十号により、以下の箇所が史蹟名勝天然記念物保存法第一条に依り第一類の史跡に指定された。

長久手古戦場	愛知県愛知郡長久手村大字長湫字佛ヶ根	五番、一二番、一九番	－①		
	同	字武蔵塚	四番ノ一、四番ノ二、五〇番	－②	
	同	字城屋敷	九〇番ノ一、九〇番ノ二	－③	
附 御旗山	同	字富士浦	四一番	富士社境内	－④
首 塚	同	大字岩作字元門	四一番	－⑤	
色金山	同	字色金	三七番ノ一、内實測七畝十五歩	－⑥	

※右側の○数字は下図の史跡地の位置を示す。

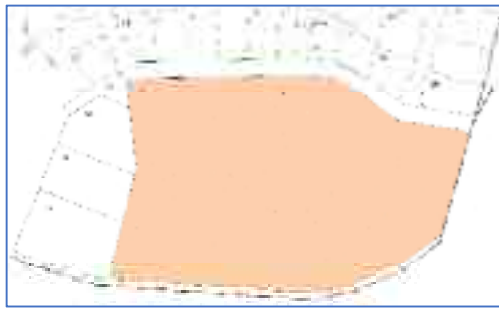
- ・その後、同字城屋敷 九〇番ノ一、九〇番ノ二（現在の血の池公園付近）は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和 40 年（1965）12 月 10 日付けで、文化財保護委員会告示第 66 号により指定を解除された。



- 指定位置
- 指定解除位置

図 - 国指定史跡位置図

② 地籍図



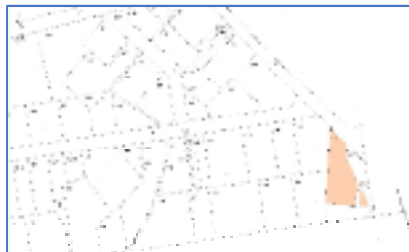
●長久手古戦場（勝入塚）
仏が根 1202 番

面積：8,436.00 m²



●長久手古戦場（庄九郎塚）
武蔵塚 202 番、武蔵塚 205 番

面積：6,112.54 m²（武蔵塚 202 番）
2,022.88 m²（武蔵塚 205 番）



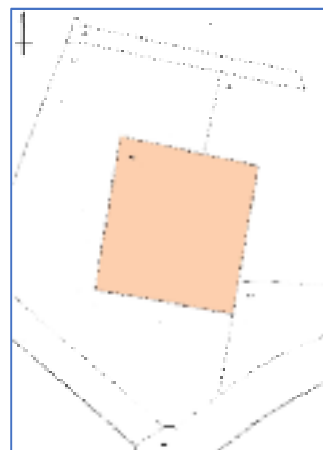
●長久手古戦場（二本松塚）
武蔵塚 620 番、
武蔵塚 622 番

面積：307.00 m²（武蔵塚 620 番）
16.52 m²（武蔵塚 622 番）



●長久手古戦場
（武蔵塚）
武蔵塚 906 番

面積：2,558.29 m²



●附 御旗山
富士浦 602 番

面積：2,791.00 m²



●附 首 塚
岩作元門 41 番

面積：42.00 m²



●附 色金山
岩作色金 37 番 1
の一部

面積：743.80 m²

(2) 指定解説文

昭和 14 年（1939）9 月 7 日文部省告示第四百十号による国指定史跡の事由及び保存の要件は以下の通りである。

指定の事由	史蹟の部第四及第三ニ依ル（当時は、史跡を史蹟として表示）
保存の要件	碑石ノ毀損及破壊ヲ為サザルコト 樹木ノ伐採及栽植ニ當リテハ十分注意スルコト

※史蹟の部第四及第三とは、

- ・ 第四（古城跡、城砦、防塁、古戦場、国郡庁跡其の他政治軍事に關係の深き史跡）
- ・ 第三（古墳及著名なる人物の墓並碑）

長久手古戦場史蹟台帳（その 1）（愛知県史蹟台帳）

種別	名 稱	所在地	説明
史蹟	長久手古戦場	愛知県長久手町 （旧長久手町） 色金山山頂	天正十三年七月、織田信長と徳川家康の戦い、信長が戦死した場所。戦後、信長の首級がここに置かれたと伝わる。戦場跡として、戦国時代の遺物や戦士の墓などが散見する。戦場跡として、戦国時代の遺物や戦士の墓などが散見する。

長久手古戦場史蹟台帳（その 2）（愛知県史蹟台帳）

種別	名 稱	所在地	説明
史蹟	長久手古戦場	愛知県長久手町 （旧長久手町） 色金山山頂	天正十三年七月、織田信長と徳川家康の戦い、信長が戦死した場所。戦後、信長の首級がここに置かれたと伝わる。戦場跡として、戦国時代の遺物や戦士の墓などが散見する。戦場跡として、戦国時代の遺物や戦士の墓などが散見する。

[illegible]

天正十二年小牧戰役中ノ主戰地ニシテ其ノ激戰地點ト認メラルベキハ長久手聚落ノ中心ヨリ西南方ニ亘レル丘陵地帯ナリ俚人佛ヶ根ト總稱ス 同年四月九日羽柴秀吉ノ先鋒池田信輝其ノ子之助及森長可等徳川家康ノ軍ト激戰セシ處ニシテ字佛ヶ根ニハ池田信輝其ノ南方一段低キ地點字武藏塚ニハ池田之助又其ノ西方約ニ町ヲ距テタル同字地内ニハ森長可ノ墓地アリ何レモ明和八年十二月建設ノ石標及各家子孫ノ建設ニ係レル顯彰ノ碑石アリ 字城屋敷ハ池田方陣地ト傳ヘラレ近年迄鎧掛松ト呼バレタル老松アリシガ枯損ノ為今取除カル御旗山ハ字富士浦ニアリ高約三百尺ノ獨立ノ小山ニシテ頗ル展望ニ富メリ 頂上ニ村社富士社ノ社殿アリ 家康牙旗ヲ立テタル處ト傳ヘラル 社殿ノ傍ニハ其ノ由來ヲ記セル石標アリ 首塚ハ大字岩作字元門縣道ノ北側人家ニ圍マレタル中ニアリ高三尺東西十六尺、南北二十尺略方形ニ石垣ヲ組ミ中ニ寶永三年四月建設ノ首塚ト記セル石標及明治四十三年四月建設ノ首塚碑アリ塚ハ高五尺バカリ上ニ松槭等ノ樹木繁茂セリ

53

(3) 指定地の状況

① 所在地と面積

史跡長久手古戦場の住所・地目・面積については、以下の通りである。(面積は、登記簿面積)

名 称	指定時住所	住所	地目	地積 (㎡)
長久手古戦場	字佛ヶ根12	武蔵塚202番	雑種地	6,112.54
	字佛ヶ根5	武蔵塚205番	雑種地	2,022.88
	字佛ヶ根19	仏が根1202番	雑種地	8,436.00
	字武蔵塚4-1	武蔵塚620番	雑種地	307.00
	字武蔵塚4-2	武蔵塚622番	雑種地	16.52
	字武蔵塚50	武蔵塚906番	雑種地	2,558.29
附 御旗山	字富士浦41	富士浦602番	境内地	2,791.00
附 首 塚	岩作元門41	岩作元門41番	原 野	42.00
附 色金山	岩作色金37番1の一部	岩作色金37番1の一部	山 林	743.80

② 現況管理体制

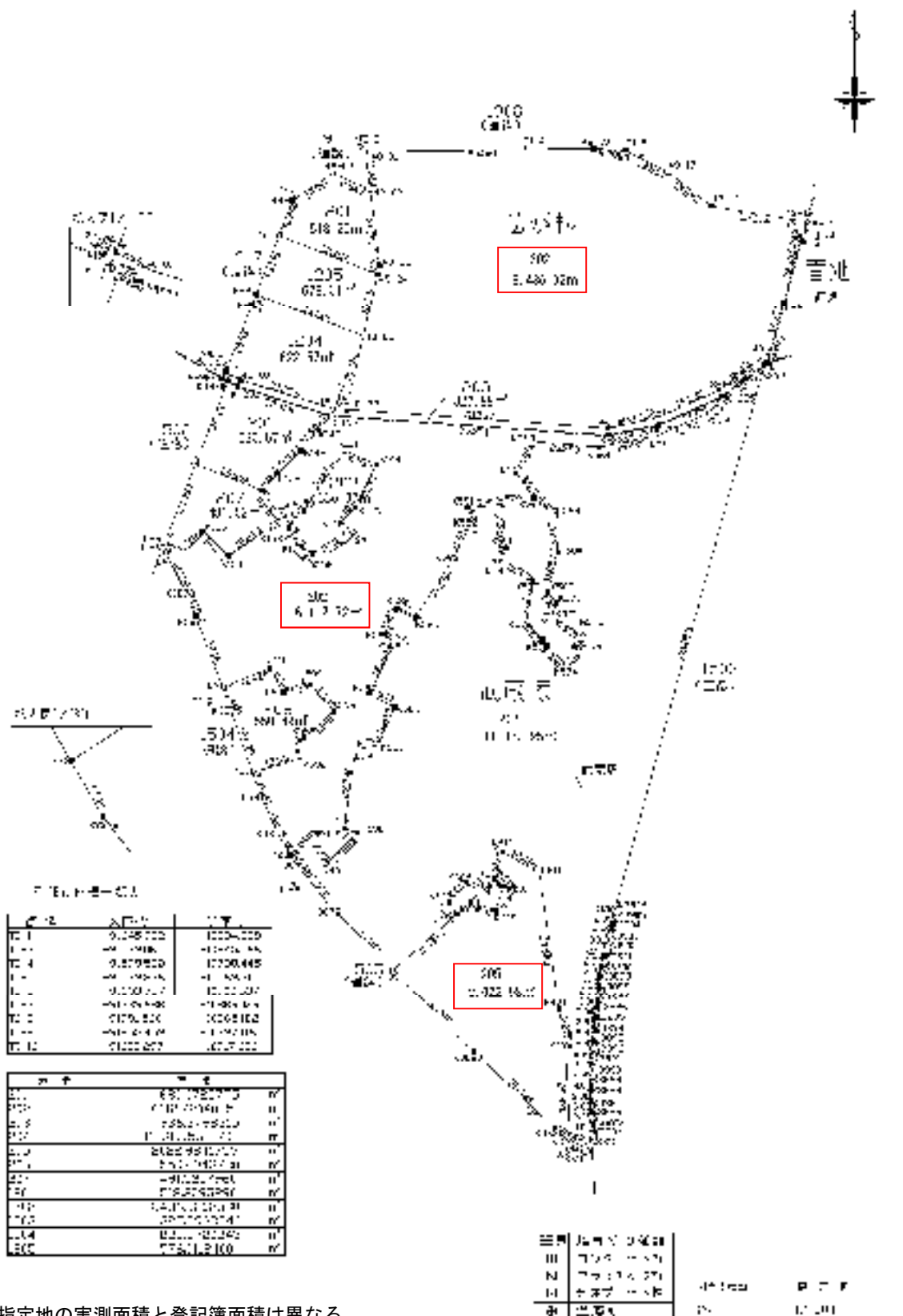
土地所有・管理については、以下の通りである。

名称	住所	所有者	管理者
長久手古戦場	武蔵塚 202 番外 5 筆	長久手市	長久手市
附 御旗山	富士浦 602 番	富士社	境内地として長湊区が管理
附 首塚	岩作元門 41 番	石作神社	長久手市※
附 色金山	岩作色金 37 番 1 の一部	石作神社	長久手市

※地元有志

③ 指定範囲

指定範囲（長久手古戦場／武蔵塚 202 番・205 番、仏が根 1202 番【勝入塚・庄九郎塚】）の確定図

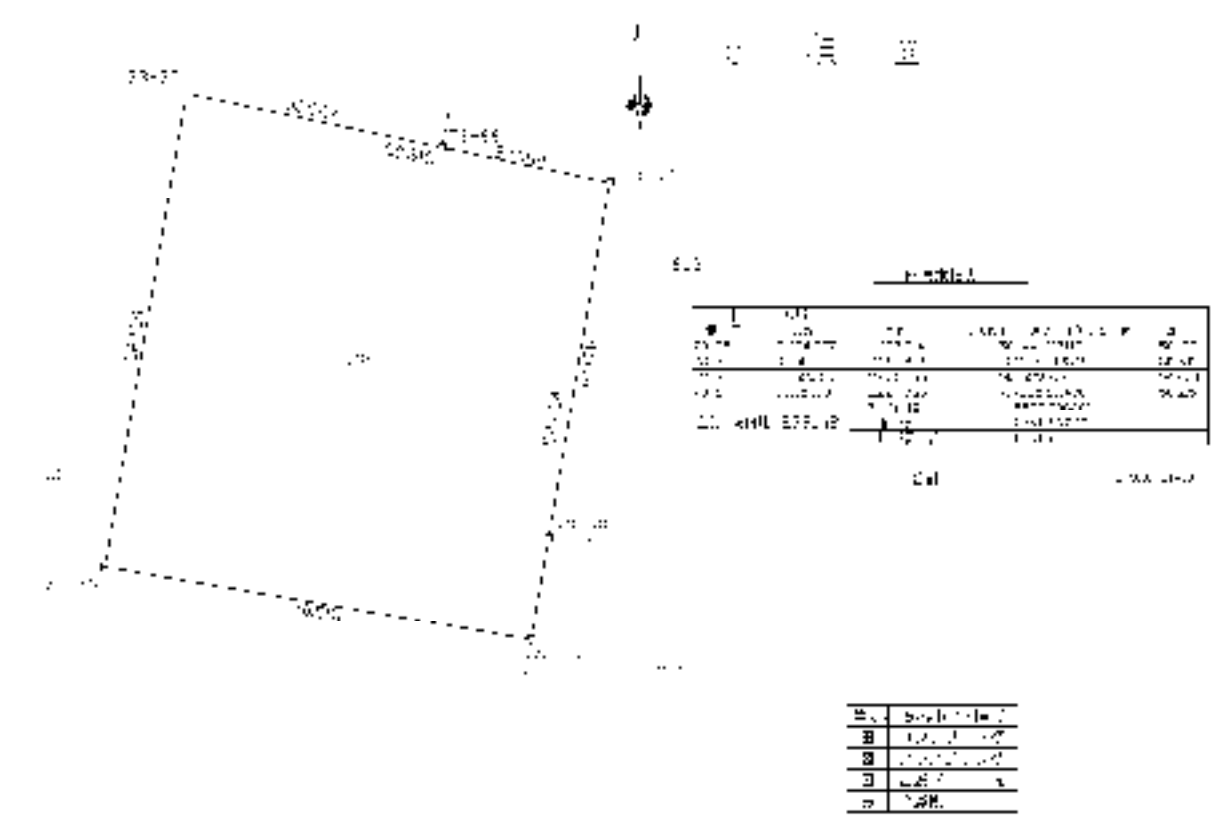


Technical drawing of a land plot with a dashed boundary and a solid boundary. The plot is labeled 'A. 1' and 'A. 2'. It includes a north arrow pointing upwards. To the right of the plot is a table with 5 columns and 10 rows, containing numerical data. Below the table is a small rectangular box with text.

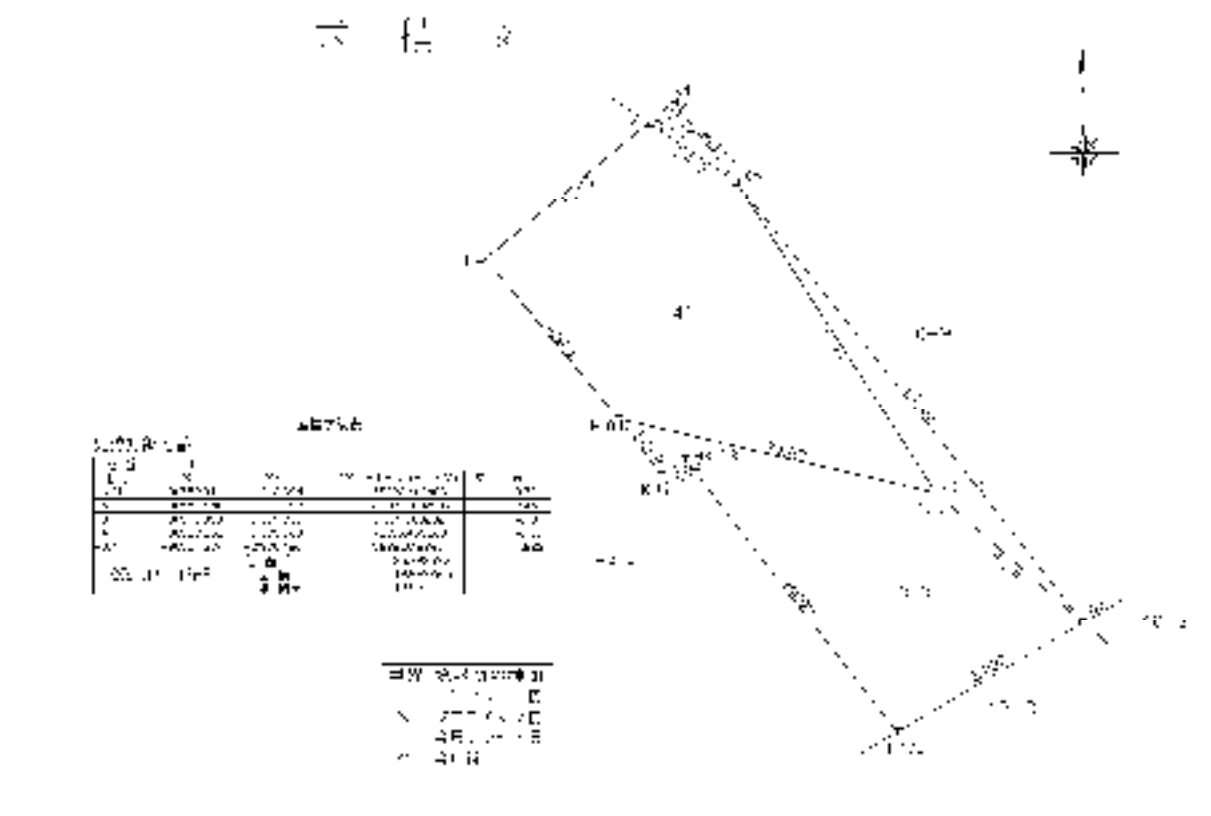
№	Вид	Длина	Ширина	Площадь
1	Лес	100	50	5000
2	Лес	100	50	5000
3	Лес	100	50	5000
4	Лес	100	50	5000
5	Лес	100	50	5000
6	Лес	100	50	5000
7	Лес	100	50	5000
8	Лес	100	50	5000
9	Лес	100	50	5000
10	Лес	100	50	5000

Всего: 10000

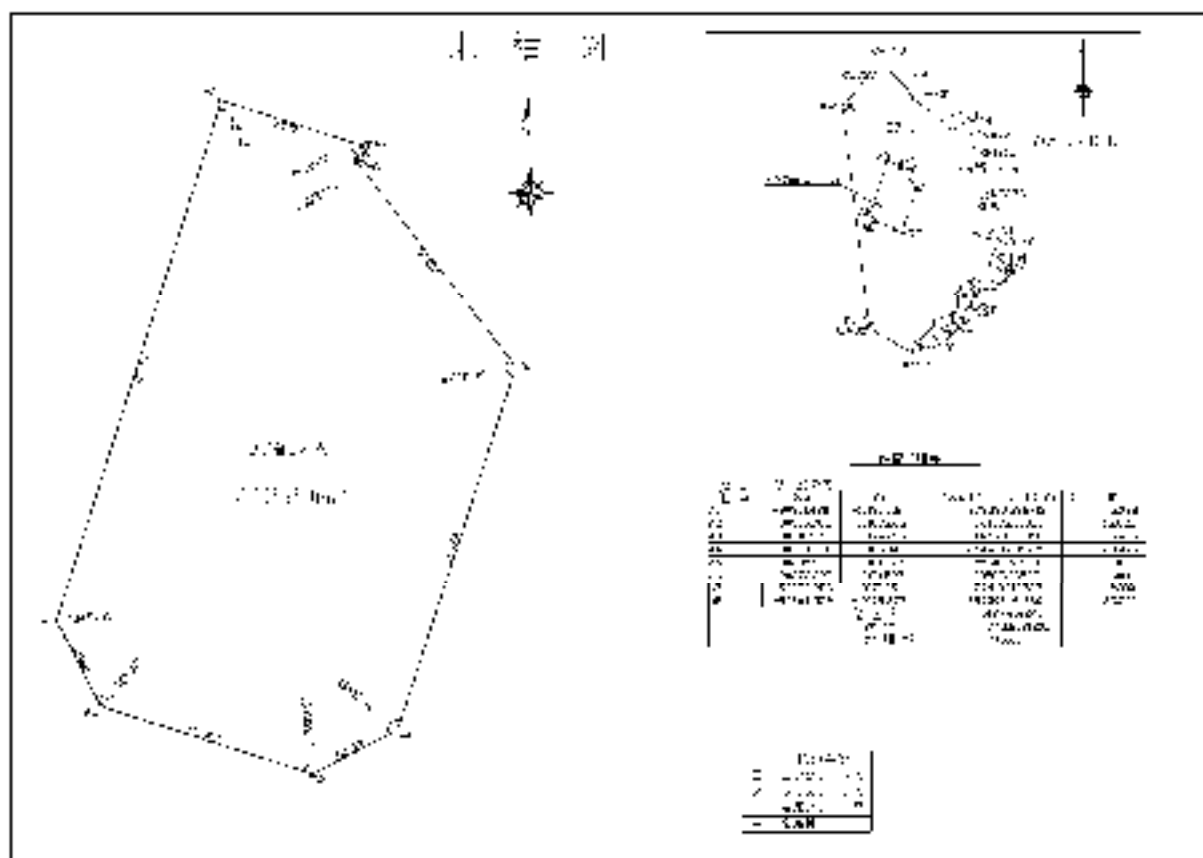
指定範囲（附 御旗山）の確定図



指定範囲（附 首塚）の確定図



指定範囲（附 色金山）の確定図



(4) 指定地の現況-1 (長久手古戦場／武蔵塚 202 番・205 番、仏が根 1202 番【勝入塚・庄九郎塚】)

① 地 形

現況地形は、指定当初から改変等は概ね行われていないと考えられ、明治・大正時代の地形図と比較しても、特徴的な南西から北東へ向かう尾根は現在も残されている。

隣接する「古戦場公園」の地形を見ると、指定地との境界線から外側が造成されているのがわかり、指定地への影響を避けた造成が行われたと考えられる。

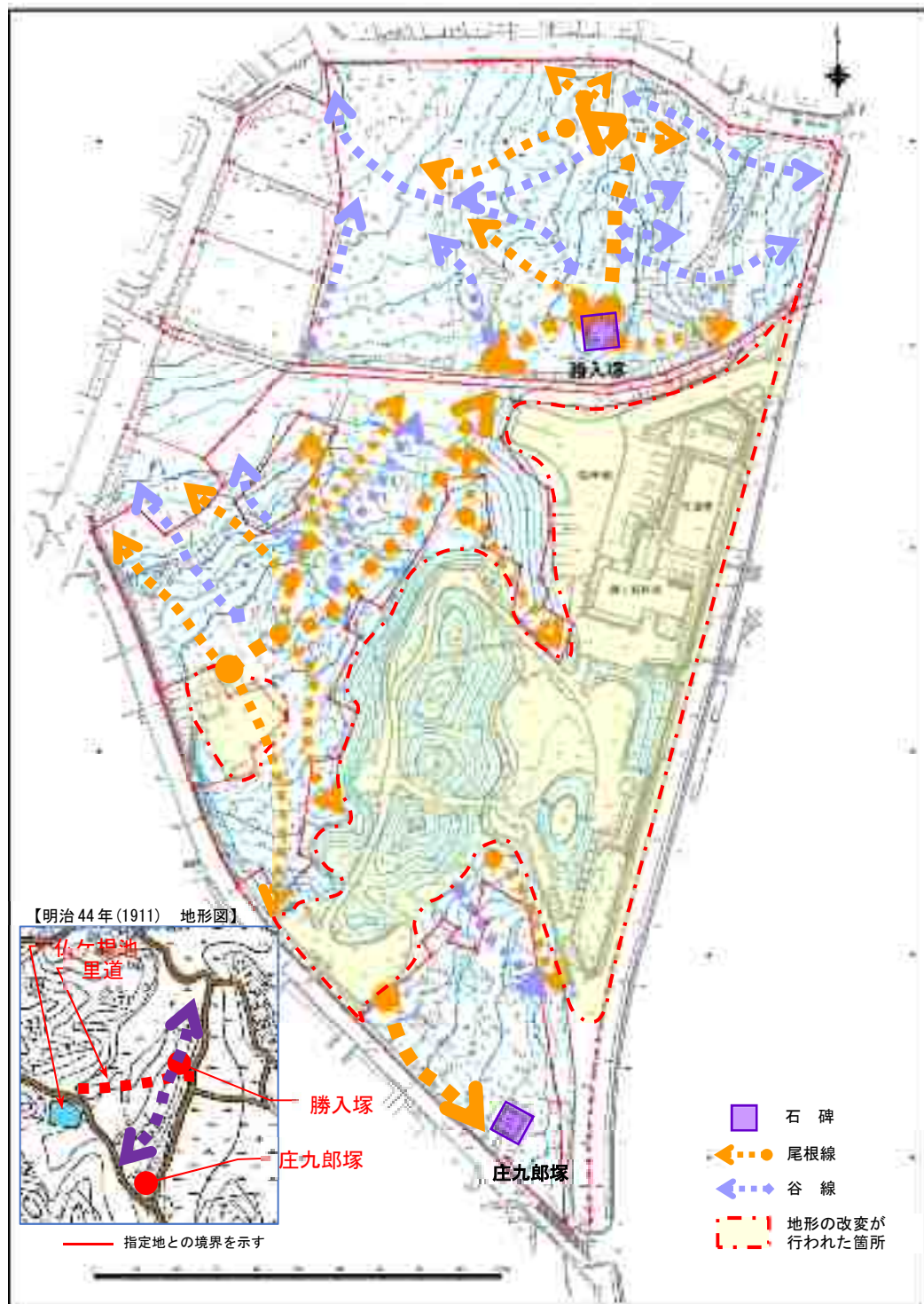


図 - 現況地形図 (H28 調査)

現在の地形（前頁参照）と「古戦場公園」が建設された当時の地形を比較してみると、指定地内での地形の改変は見られない。

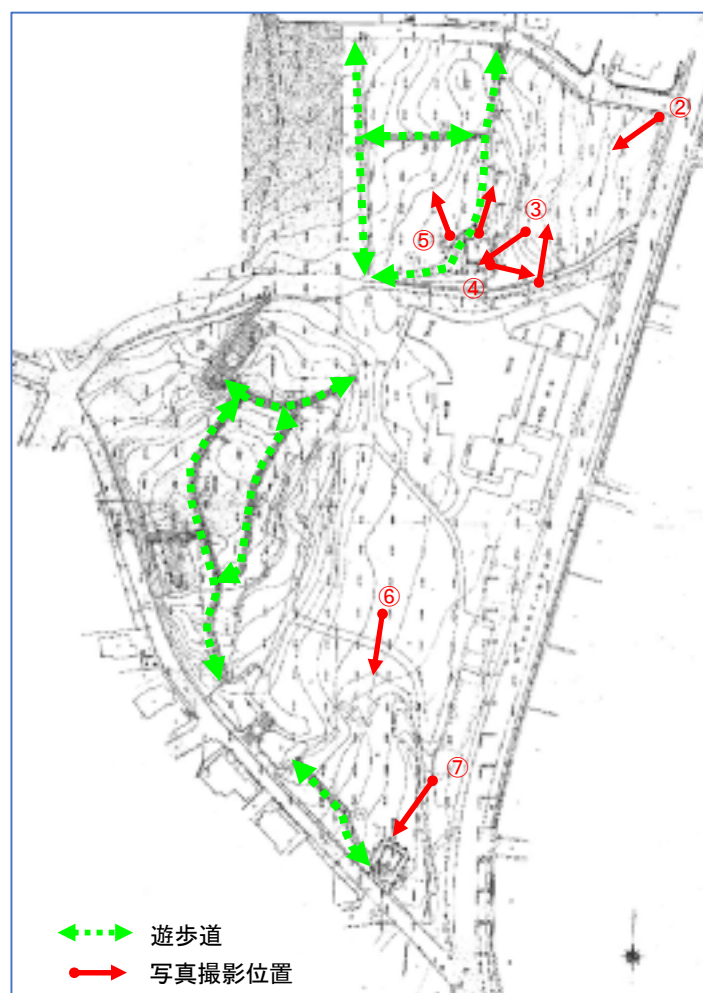


図 - 昭和 62 年 (1987) 遊歩道整備位置図

【勝入塚周辺の地形】



①勝入塚から北方向の園路



②北東角から見た長久手古戦場の地形



③北東樹林から見た勝入塚



④勝入塚東から見た樹林地



⑤勝入塚西側の赤松と桜が生育する斜面地

【庄九郎塚周辺の地形】

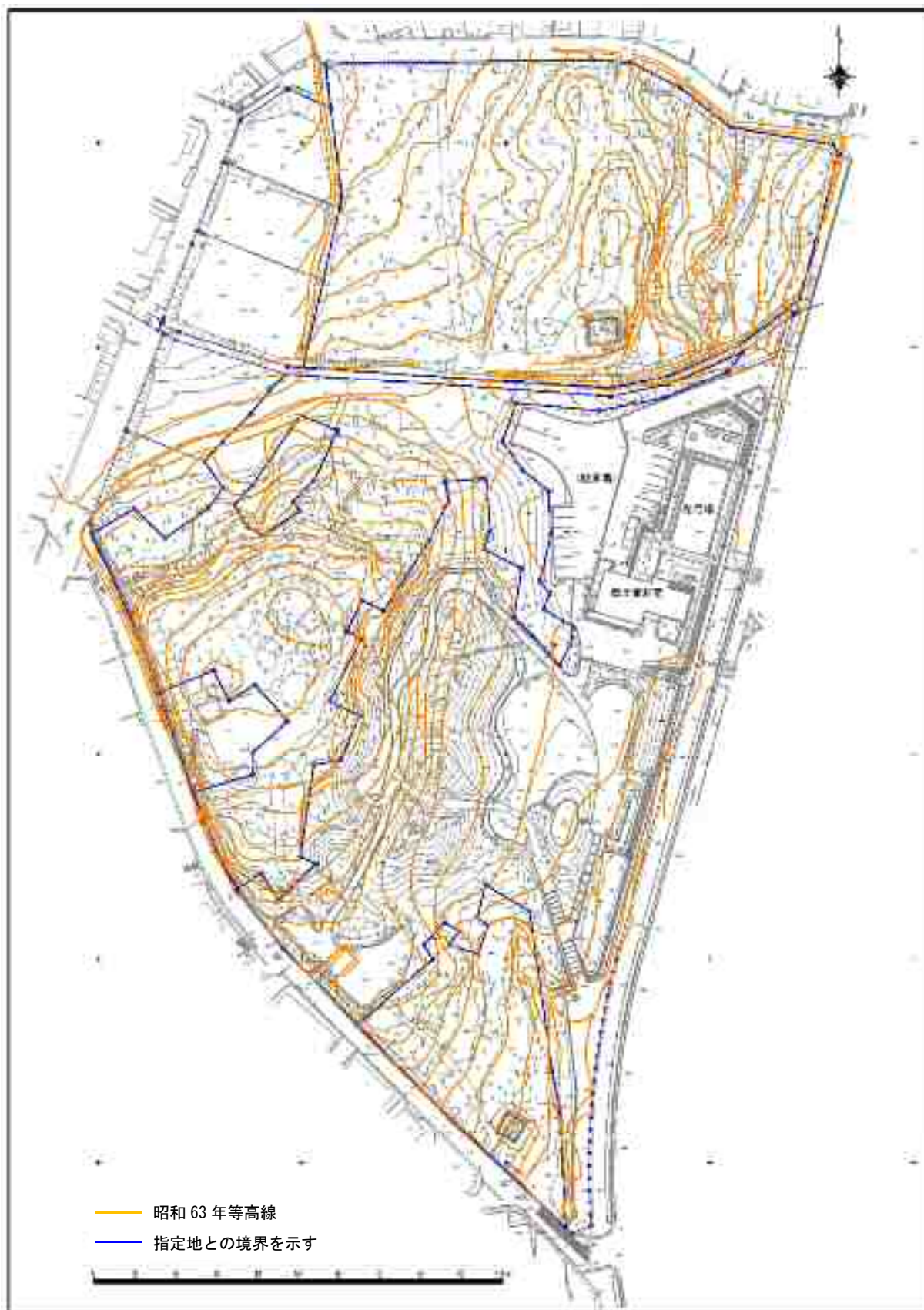


⑥谷地形（右側が指定地）



⑦中央の樹林地の奥に庄九郎塚がある

平成 28 年調査現況地形図と昭和 62 年地形図の合せ図を比較してみると、古戦場公園の庭園（縮景）と芝生広場の地形が大きく変わっているのがわかる。指定地内での改変はあまり見られない。



② 現況植生

現況植生は、指定地に隣接する「古戦場公園」及び公園内の市所有の未指定地と一体的に見えることから、区域全体を調査した。

1.構成種

絵図等に見られるクロマツ（81本）、アカマツ（42本）があり、その他にコナラ（105本）、ヒサカキ（197本）、ネズミモチ（89本）、イロハモミジ（73本）、ハゼノキ（64本）、カクレミノ（44本）、クロガネモチ（35本）、園芸種であるソメイヨシノ（361本）が主要なものである。低木では、サツキツツジが多く、次いでヒラドツツジ、カンツバキ、ドウダンツツジで、これらは公園内に植栽されたものである。草本類は樹木が成長して下層に日が当たらないためかネザサが一部に見られる程度である。

2.樹木の特徴

合戦時もあったと考えられるクロマツやアカマツ、コナラ、ヒサカキなども見られ、合戦時の風景が感じられる。

また、ソメイヨシノが多く植えられている。

3.樹木の状態

松類は、防虫対策等の管理も見られるが、松枯れも見られた。最も多く植えられているソメイヨシノは老木化が見られ腐朽しているものもある。

全体的に生育は良いが、下枝が伸び、見通しを悪くしたりしている場所も多い。

もっとも大きな問題は、石碑周りに成長した樹木である。根茎が石碑に影響を与えないようにすることや、落枝による損傷を防ぐなどの丁寧な管理が必要である。

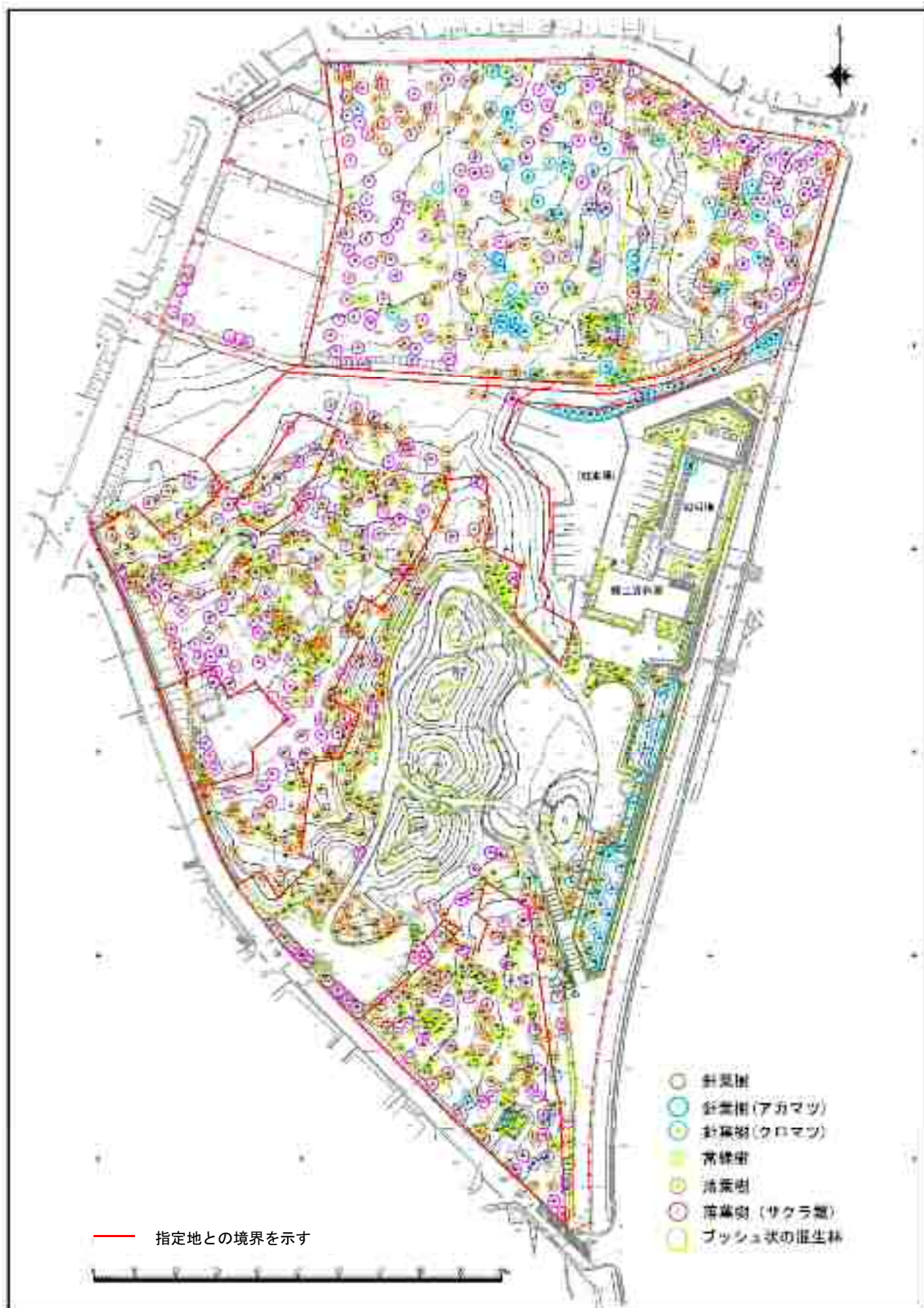


図 - 現況植生図 (H28 調査)



図 - 勝入塚の現況植生 (H28 調査)

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
435	クロマツ	8.0	0.82		2.0	1	本	
436	ヒサカキ	1.2			0.5	1	本	
437	ヒサカキ	1.1			0.5	1	本	
438	サツキツツジ	0.3			0.5	1	株	
439	サツキツツジ	0.5			0.2	1	株	
440	イロハモミジ	3.5	0.41		2.5	1	本	
441	ヤマザクラ	4.5	0.48		3.5	1	本	
442	サツキツツジ	0.6			0.6	1	株	
443	ヒサカキ	1.0			0.6	1	本	
444	クロマツ	7.0	0.84		1.5	1	本	
445	ヒノキ	8.5	1.47	2	4.0	1	本	
446	ヒサカキ	3.0	0.42		2.0	1	本	
447	ヒサカキ	3.0	0.28	6	2.0	1	本	
448	ハゼノキ	0.5	0.20		1.5	1	本	
449	ヒサカキ	3.0	0.21		1.5	1	本	
450	イヌツゲ	1.4			0.6	1	本	
451	イロハモミジ	3.0	0.42		2.5	1	本	C=0.4で計測
452	ヒサカキ	2.5	0.17	3	1.0	1	本	
453	ヒサカキ	1.5	0.11	3	1.0	1	本	
454	ヒサカキ	2.0	0.10		1.0	1	本	
455	ヒサカキ	2.0	0.13	2	0.6	1	本	
456	ヒサカキ	2.0	0.08		0.5	1	本	
457	ヒサカキ	3.0	0.18	2	1.3	1	本	
458	アカマツ	12.0	1.60		4.0	1	本	
459	ヒサカキ	4.0	0.46		1.8	1	本	
460	ソメイヨシノ	4.5	0.40		3.5	1	本	

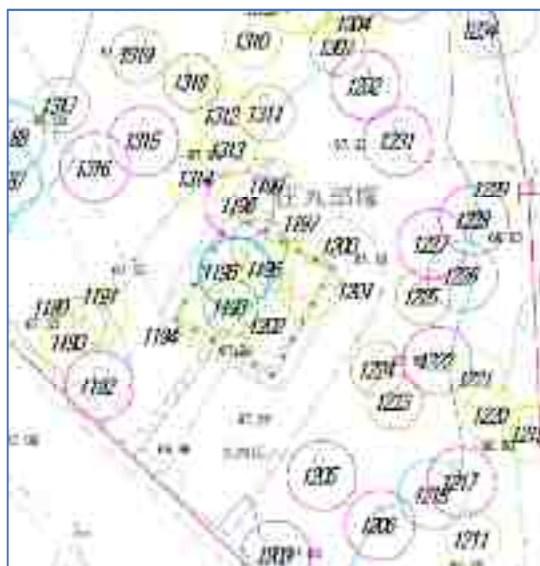


図 - 庄九郎塚の現況植生 (H28 調査)

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
1193	ヒノキ	14.0	1.68		6.5	1	本	
1194	ヒサカキ	4.0	0.55	2	5.0	1	本	
1195	アカマツ	13.0	1.32		9.0	1	本	
1196	モッコク	6.0	0.70		5.0	1	本	
1197	ヒノキ	13.0	0.94		4.0	1	本	
1198	ソメイヨシノ	11.0	0.66		7.0	1	本	
1199	シャシャンボ	5.5	1.12	6	6.0	1	本	
1200	ヒサカキ	4.0	0.23		3.0	1	本	
1201	ヒサカキ	3.5	0.42		3.0	1	本	
1202	ヒサカキ	3.5	0.46	2	3.0	1	本	

③現況土地利用

指定地は、隣接する「古戦場公園」と土地利用上や機能面でも密接に関わっている。古戦場公園内の「長久手市郷土資料室」は、史跡長久手古戦場のガイダンス機能的な役割としても利用されている。駐車場は、郷土資料室を含めた長久手古戦場野外活動施設や古戦場公園の利用者が使用している。

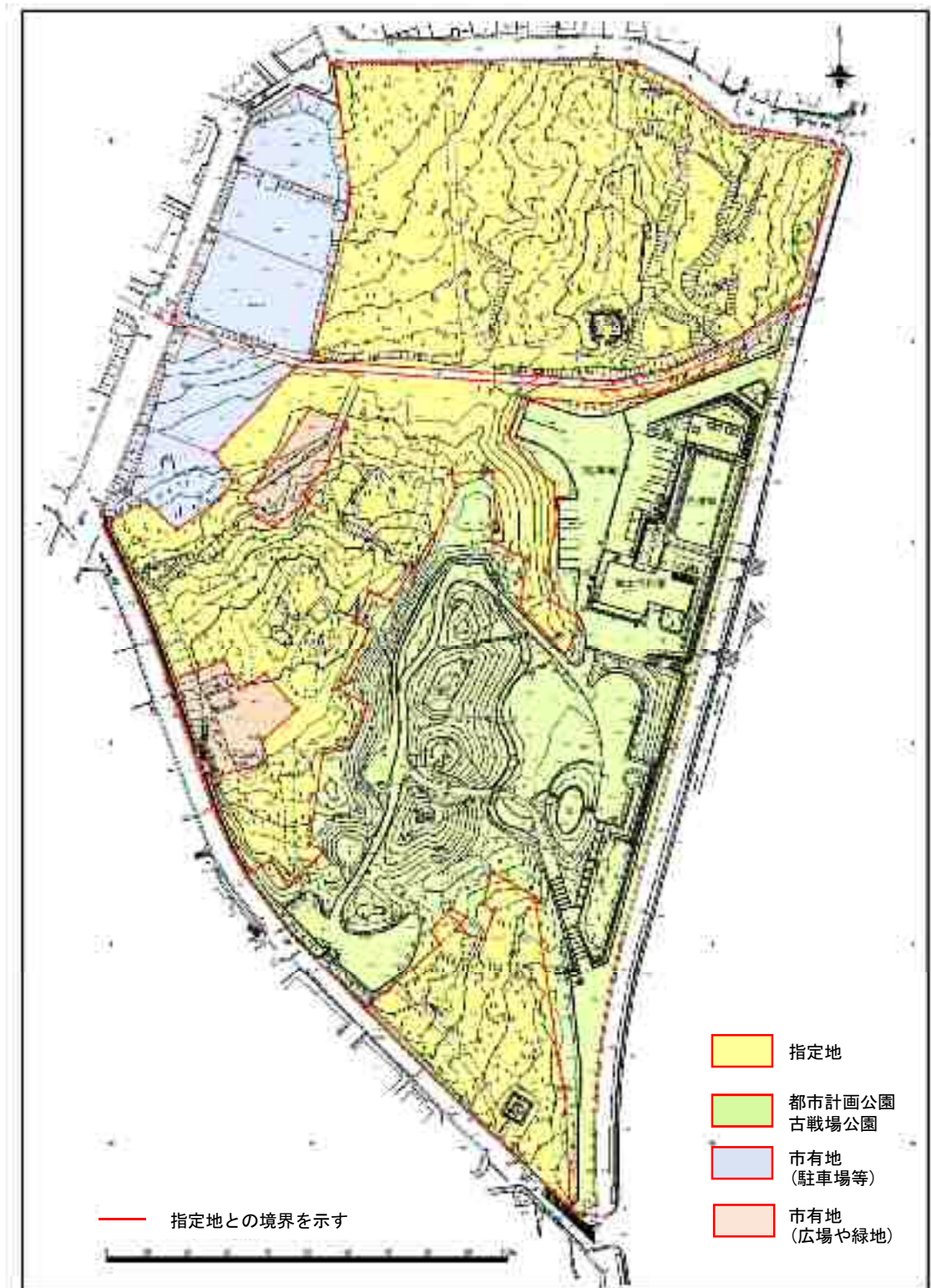
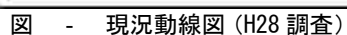


図 - 土地利用区分図 (H28 調査)

また、指定地境界周りには柵等もなく、どこからでも入れる状態であり、周辺住民による日常の散策などの公園的利用もなされている。



現況施設配置

※数字は現況施設一覧の番号を示す。

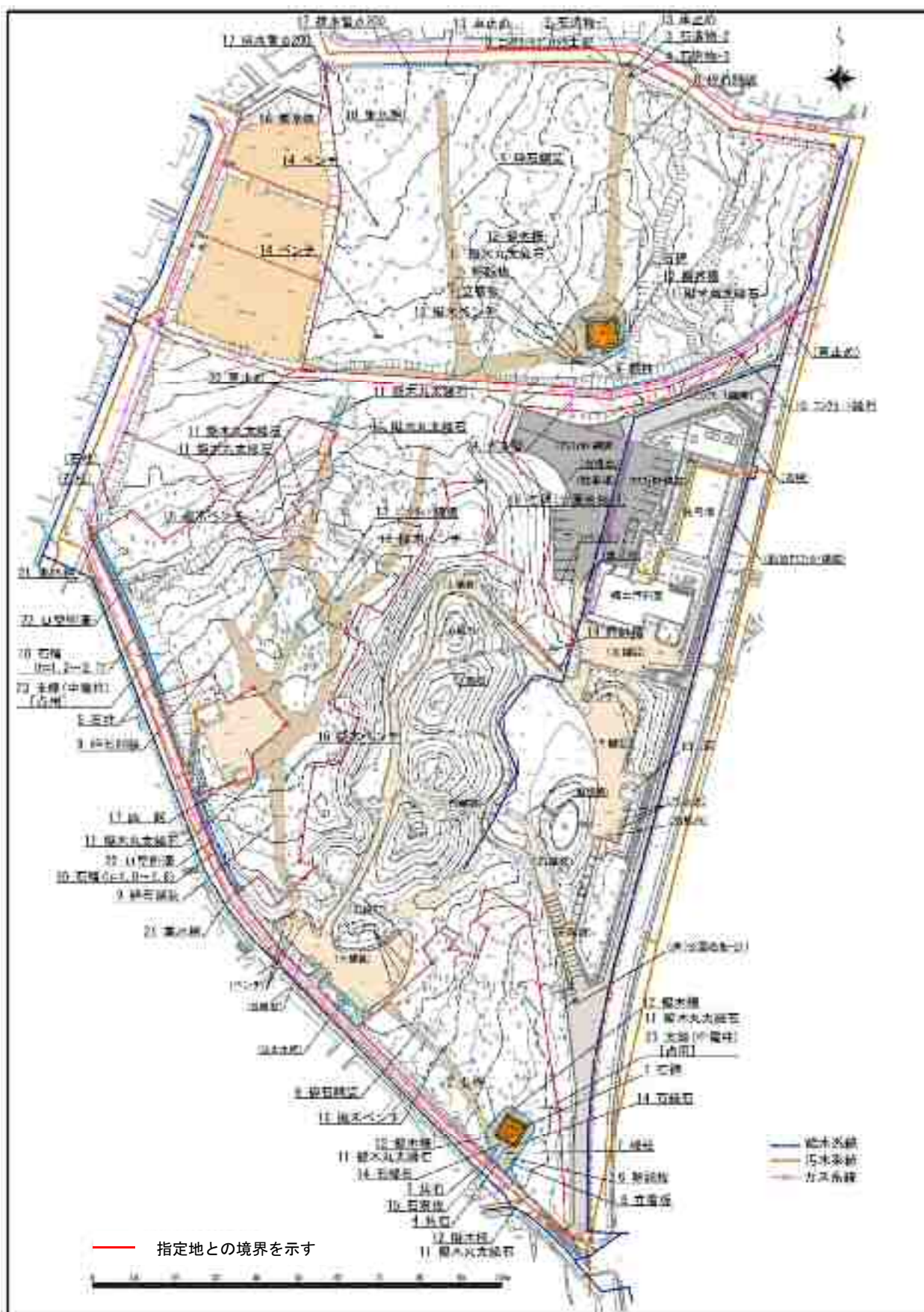


図 - 現況施設配置図 (H28 調査)

施設一覧

表 - 現況施設一覧 (H28 調査)

位置	番号	名 称	外寸(W×H×T),単位はcm	素材	数量	単位	備 考
勝入塚内		工作物					
	1	石碑	勝入塚	石製	1	式	記念碑
	2	石造物-1	37×44×30	花崗岩製	1	基	用途不明
	3	石造物-2	50～35×43×20	花崗岩製	1	基	用途不明
	4	石造物-3	32×50×30	花崗岩製	1	基	用途不明
	5	解説板	149×84、板(82×75)	SUS製	1	基	石碑解説
	6	標柱	□15×108	鋼製	1	基	
	7	立看板	可動式、24×40	木製	1	基	
	8	碎石舗装		碎石と土	735	m ²	面積は概数
	9	コンクリートブロック土留	5.5×60、h=9～80	コンクリート製	6.6	m	境界沿い土留め
	10	コンクリート縁石	□12	コンクリート製	60.0	m	舗装止め
	11	擬木丸太縁石	φ10	擬木製	41.8	m	散策路明示
	12	擬木柵	φ12、h=54	擬木製、チェーン付	41.8	m	散策路明示
	13	車止め	φ12.5、h=55	擬木製	43	基	不法駐車対策と進入防止
	14	ベンチ	40×197	合成木材製	2	基	内1基は地中埋没
	15	擬木ベンチ	座面:40×150、脚:φ28	擬木製	1	基	
		排水施設					
	16	集水樹	□80、グレーチング蓋	コンクリート製	2	基	
	17	排水管	φ20	塩化ビニール製	3	m	道路樹へ排水
		●電気設備・給水設備・汚水設備、占用施設はない					

位置	番号	名 称	外寸(W×H×T),単位はcm	素材	数量	単位	備 考
庄九郎塚内		工作物					
	1	石碑	庄九郎塚	石製	1	式	記念碑
	2	石碑	柱:17×15、笠石:35×34	花崗岩製	1	基	
	3	角石	130～97×67×55	花崗岩製	1	基	門石
	4	角石	90×70×90	花崗岩製	1	基	門石
	5	石柱	□160、h=65(文字有)	花崗岩製	1	基	
	6	解説板	149×84、板(82×75)	SUS製	1	基	石碑解説
	7	標柱	□15×108	鋼製	1	基	
	8	立看板	可動式、24×40	木製	1	基	
	9	碎石舗装		碎石と土		m ²	面積は概数
	10	石積	h=210～100	間知石花崗岩製、谷積		m	
	11	擬木丸太縁石	φ10	擬木製		m	散策路明示、土留め
	12	擬木柵	φ12、h=54	擬木製、チェーン付		m	散策路明示
	13	コンクリート舗装	t=5平均	コンクリート製		m ²	
	14	石縁石	不定形	花崗岩等		m	
	15	石階段		花崗岩製	1	基	
	16	擬木ベンチ	座面:40×150、脚:φ28	擬木製	4	基	
	17	四阿	420×420	擬木製	1	基	一部が史跡内
	18	石碑(公園名板)	石柱:80×73、台座:220×210	花崗岩製	1	基	一部が史跡内
	19	時計塔	93×43	タイル、石材等	1	基	
	20	車止め	50×50	コンクリート製	2	基	
		排水施設		柱:鋼管φ180,屋根:ポリカ製			
	21	集水樹	□520	コンクリート製	2	基	
	22	U型側溝	U-180	コンクリート製		m	
		占用施設					
	23	支線(中部電力)			3	箇所	
	24	都市ガス管			3	m	郷土資料室へ
		●電気設備、給水設備、汚水設備はない					

現況施設写真（H28 年撮影）

番号は施設一覧表の番号を示す。



[1 勝入塚]



[1 勝入塚 明治の碑]



[1 勝入塚 明和の碑]



[8 碎石舗装と 2・3・4 石造物]



[2 石造物-1]



[3・4 石造物-2, -3]



[5 解説板]



[6 標柱]



[7 立看板]



[11 擬木丸太縁石と 12 擬木柵]



[16 集水枳と 13 車止め]

[14・15 ベンチ]

現況施設写真（H28 年撮影）

番号は施設一覧表の番号を示す。



[1 庄九郎塚]



[1 庄九郎塚 明治の碑]



[1 庄九郎塚 明治の碑と明和の碑]



[1 庄九郎塚 石碑]



[2 勝道九兵衛の碑から見た庄九郎塚]



[2 勝道九兵衛の碑]



[3・4 角石と 15 石階段]



[5 石柱]



[史跡地外の石柱]



[6 解説板]



[7 標柱]



[8 立看板]



[9 碎石舗装と 11 擬木丸太縁石]



[10 石 積]



[11 擬木丸太縁石と 12 擬木柵]



[13 コンクリート舗装 (アスレチック遊具跡)]



[16 擬木ベンチ]



[17 四 阿]



[18 石碑 (公園名板-1)]



[19 時計塔]



[23 支線 (中部電力) 占用]

指定地周辺の施設写真（H28 年撮影）【 古戦場公園 】



〔長久手市郷土資料室 案内図〕



〔長久手市郷土資料室〕



〔和弓場〕



〔1 階展示室〕



〔2 階展示室〕



〔庭園と芝生広場（縮景）〕





〔郷土資料室南側広場〕



〔庄九郎塚北西側広場〕



〔四阿周辺〕



〔古戦場公園南側歩行者入口〕
（公園名板-2）



〔古戦場公園東側入口〕



〔古戦場公園東側歩行者入口〕



〔古戦場公園東側外周〕



〔勝入塚南の里道（東側）〕



〔勝入塚南の里道（西側）〕



〔指定地西側隣接地（駐車場）〕

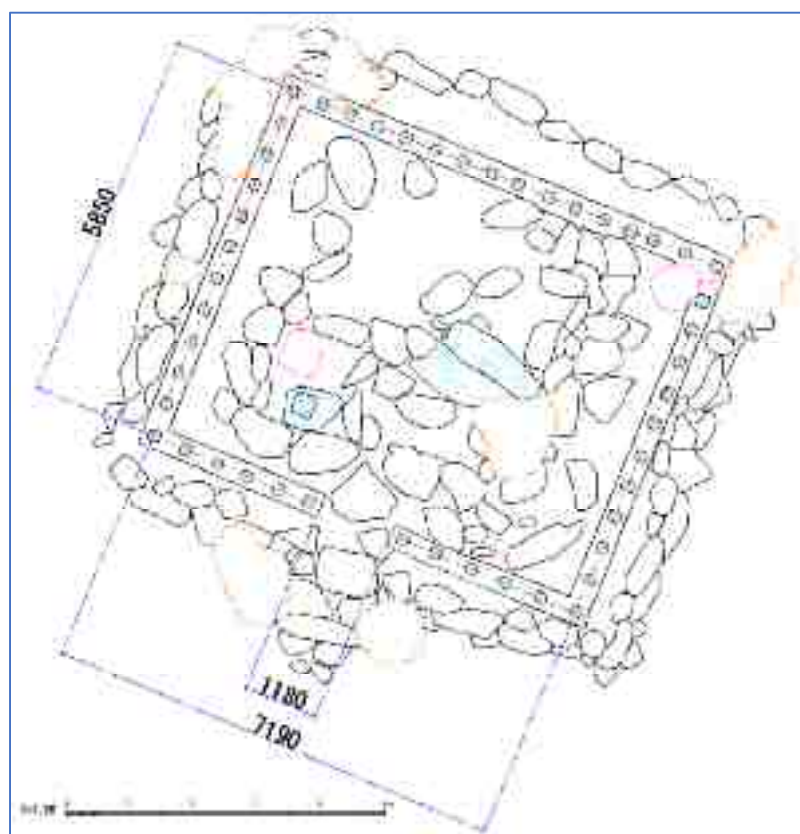
石碑の詳細調査（H28 年調査・写真撮影）【 勝入塚 】



〔勝入塚 オルソー平面〕

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単位	数量	備考
明和の碑	明和8年(1771) 建立	17.5cm×17.5cm、h=122cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891) 建立	170cm×35～90cm、h=202cm(安山岩)	基	1	
石碑(石柵内)	上部破損	不明	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	73.2	
石柵	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部コンクリート補修)	m	24.7	



[平面図]



[正 面]



[右側面]



[背面]



[左側面]

【 石碑／明和の碑 】



〔明和の碑 正面〕
高さ；122cm、花崗岩

刻銘

池田勝入信輝戦死場



〔明和の碑 背面〕

刻銘

明和八年辛卯十二月八日造
人見彌右衛門
赤林孫七郎信之



〔明和の碑 右側面〕



〔明和の碑 左側面〕

【 石碑／明治の碑 】



〔明治の碑 正面〕
高さ；202cm、安山岩

刻銘

勝入池田公戦死處



〔明治の碑 背面〕

刻銘

勝入公諱信輝其子紀伊諱之助天正中十二年四月
九日二公俱戰没于長湫先考確軒公寔其遺蹟或湮
滅也將立石誌之而場損館故不肖輝博續遺志而為
之云 明治二十四年七月 十六世孫池田輝博



〔明治の碑 右側面〕



〔明治の碑 左側面〕

【 石 柵 】 (15cm×15cm、H=1m、横鉄筋 2 段、延基礎;コンクリート製)



〔正面〕 (全て花崗岩製、補修痕なし)



〔右側〕 (3 本花崗岩製、9 本コンクリート製)



〔背面〕 (全て花崗岩製、3 本補修痕あり)



〔左側〕 (全て花崗岩製、補修痕なし、
左から 5 本目文字刻込有)



〔西面のコンクリートによる作り変え状況〕



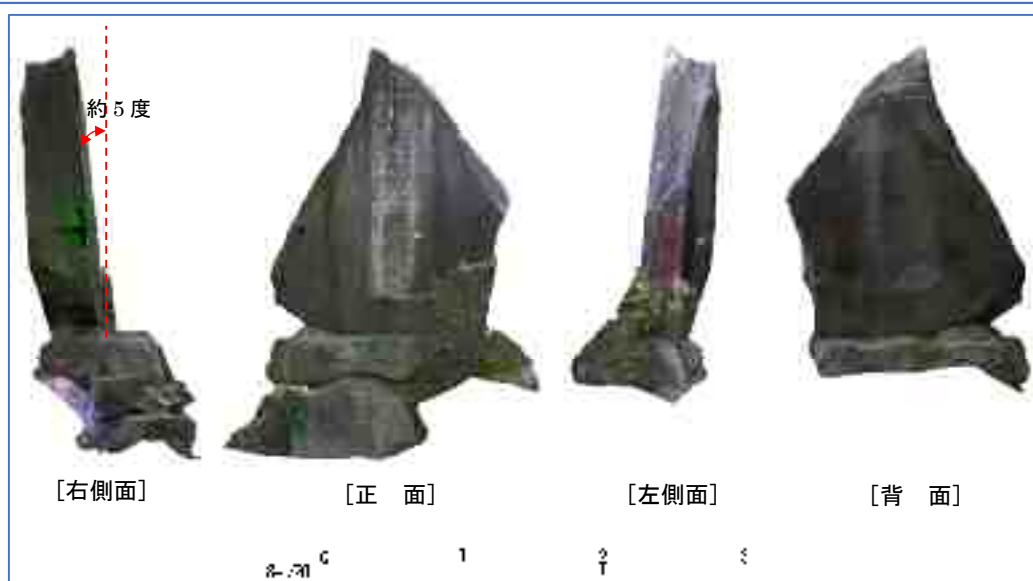
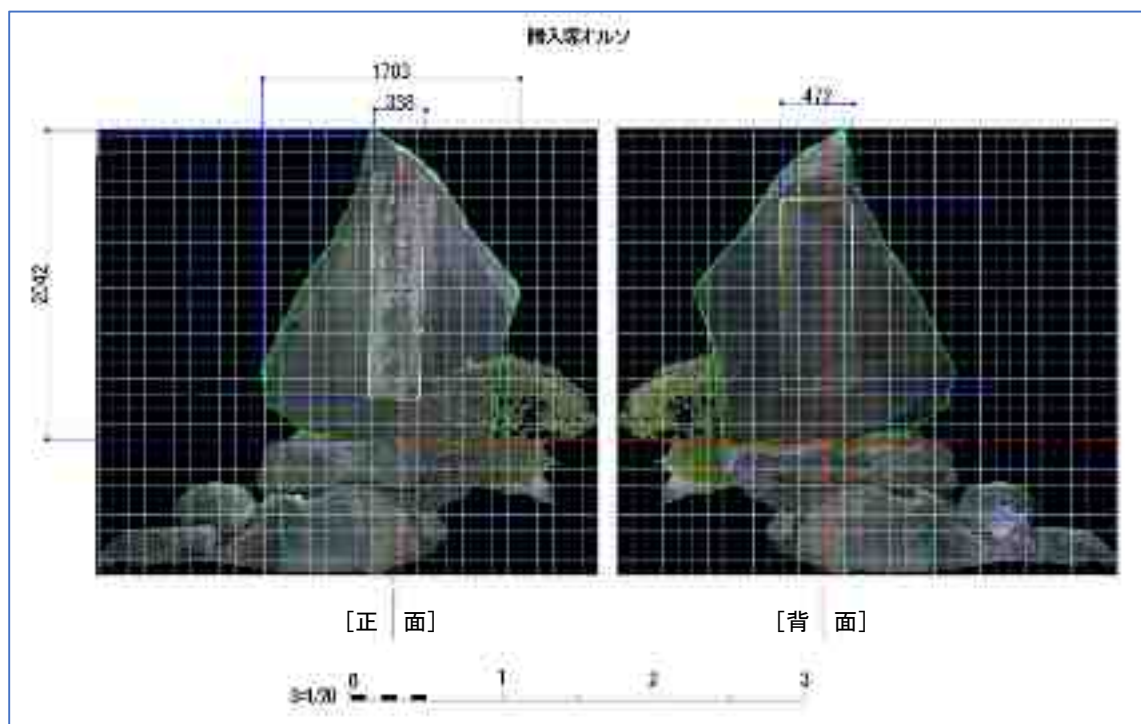
〔背面のコーキングによる修復状況〕



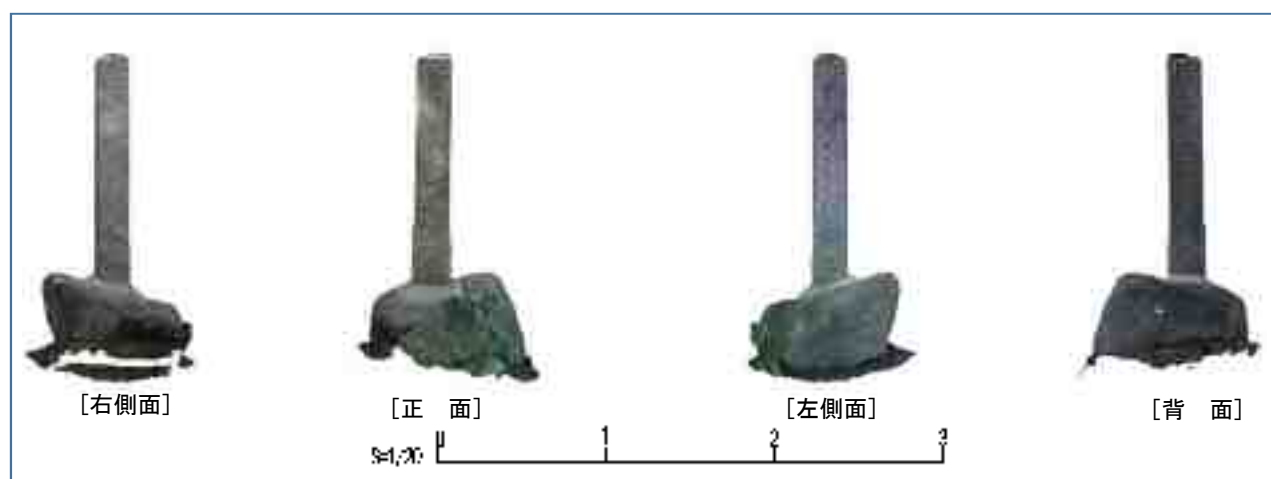
〔背面左角に赤松がくい込んだ石柱〕



〔左側の石柱に入れられた文字〕



[勝入塚 4方向オルソー立面]



[明和の碑 4方向オルソー立面]

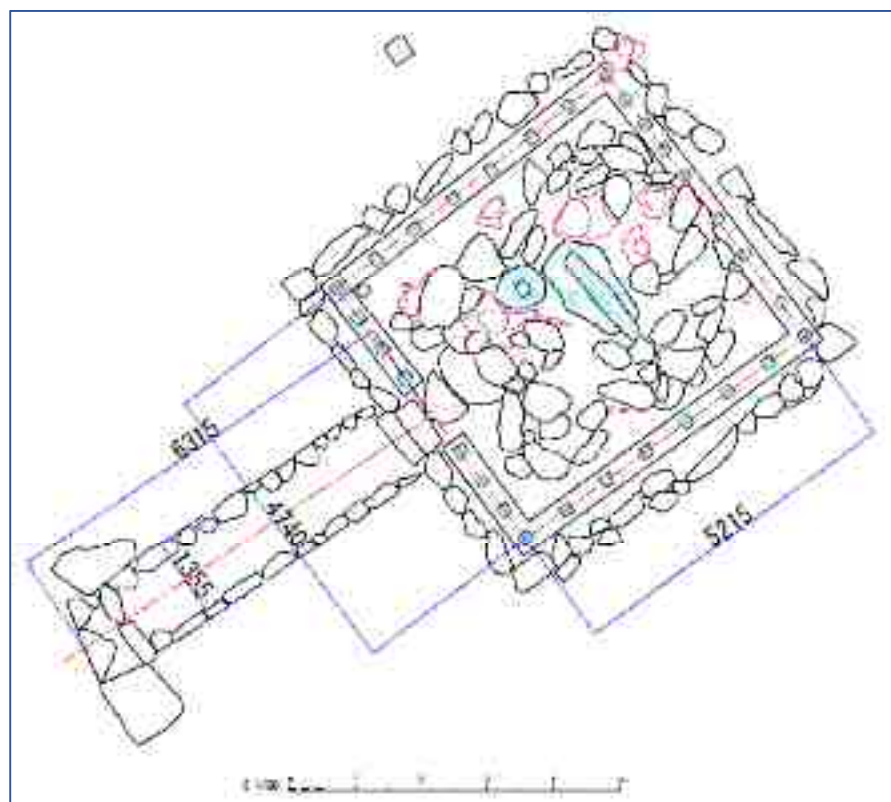
石碑の詳細調査（H28 年調査・写真撮影）【 庄九郎塚 】



〔庄九郎塚 オルソー平面〕

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単位	数量	備考
明和の碑	明和8年(1771)建立	15cm×15cm、h=130cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891)建立	165cm×32cm、h=190cm(安山岩)	基	1	
勝道九兵衛の碑	昭和16年(1937)建立	17cm×15cm、h=140cm(花崗岩)	基	1	
石碑(石柵内)	不明	16cm×16cm、h=44cm(花崗岩)	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	40.5	
石柵	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部コンクリート補修)	m	19.0	



〔平面図〕



〔正面〕



〔右側面〕



〔背面〕



〔左側面〕

【 石碑／明和の碑 】



〔明和の碑 正面〕
高さ：130cm、花崗岩

刻銘

池田紀伊守之助戦死場



〔明和の碑 背面〕

刻銘

明和八年卯十二月八日造
人見彌右衛門 漆
赤林孫七郎 信之



〔明和の碑 右側面〕



〔明和の碑 左側面〕

【 石碑／明治の碑 】



〔明治の碑 正面〕
高さ：190cm、安山岩

刻銘

紀伊守池田公戦死處
明治廿四年侯爵池田輝博建立



〔明治の碑 背面〕
(文字なし)



〔明治の碑 右側面〕



〔明治の碑 左側面〕

【 石碑／勝道九兵衛の碑 】



刻銘

勝道九兵衛秀胤討死二之處



刻銘

池田一族天正十二年四月九日戦死

〔勝道九兵衛の碑 正面〕
高さ；104cm、花崗岩

〔勝道九兵衛の碑 右側面〕



刻銘

昭和十六年三月十一日
後継 遠藤萬六建立
西区江西町三ノ三四
名古屋市



刻銘

後援 長湊 山田銅一

〔勝道九兵衛の碑 背面〕

〔勝道九兵衛の碑 左側面〕

【 石碑／その他の碑 】



〔石柵内の碑〕

刻銘

侯爵 池田

※この碑は、字鴉ヶ廻間の山林にあつたが、区画整理事業のため、昭和 57 年、この地に移された。

【 石柵 】 (15cm×15cm、H=1m、横鉄筋 2 段、延基礎;コンクリート製)



〔正面〕 (全て花崗岩製、3 本補修痕あり)



〔右側〕 (8 本花崗岩製、内 2 本コンクリート補修、
4 本コーキングによる補修痕あり)



〔左側〕 (花崗岩製、1 本コーキングによる補修痕あり)



〔背面〕 (花崗岩製、内 1 本コンクリート補修、
1 本コーキングによる補修痕あり)

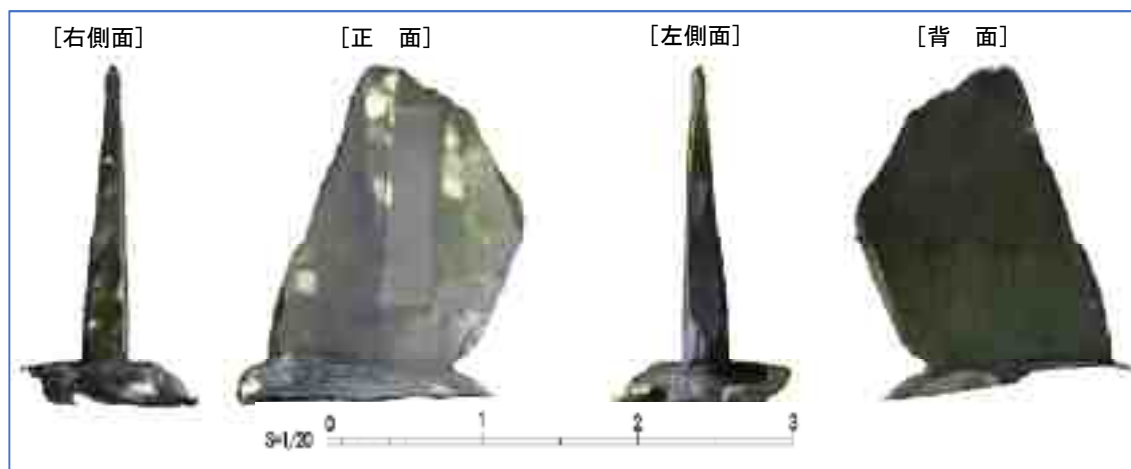
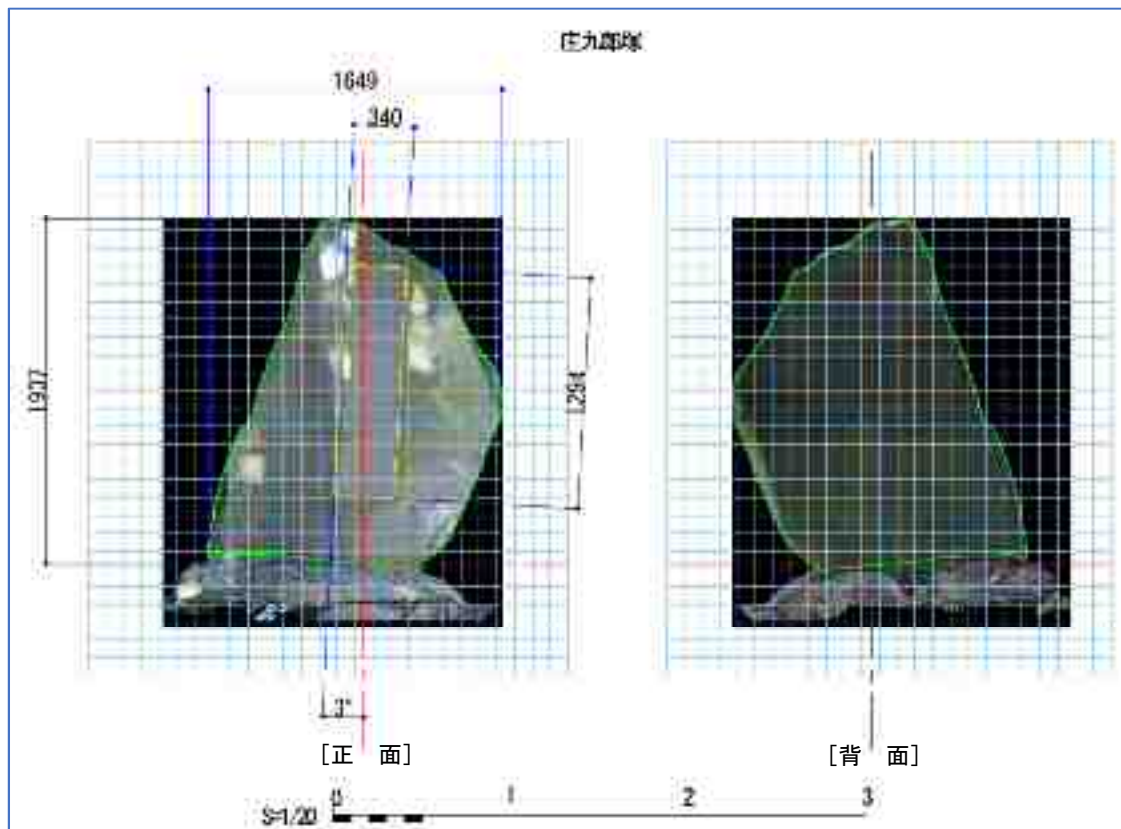


〔コンクリートによる補修〕

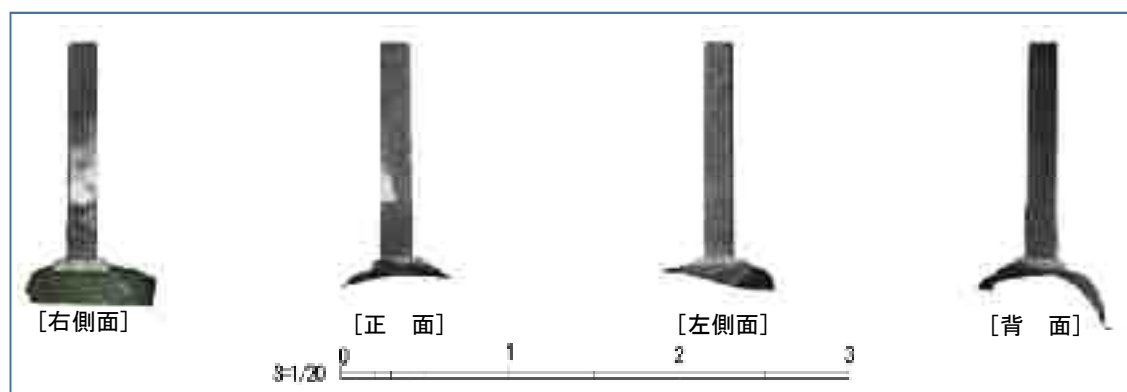


〔コーキングによる補修〕





[庄九郎塚 4方向オルソー立面]



[明和の碑 4方向オルソー立面]